

世田谷版
アプローチ・スタートカリキュラム

世田谷区教育委員会
世田谷区

目次

はじめに	1
第1章 カリキュラムの作成にあたって	2
第2章 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と アプローチ・スタートカリキュラム	7
第3章 アプローチカリキュラム	11
第4章 スタートカリキュラム	15
第5章 カリキュラムの実践事例（モデル園・校の事例紹介）	23
アプローチカリキュラム 実践事例 1～10	
スタートカリキュラム 実践事例 11～12・14	
幼小交流 実践事例 13	
第6章 今後の課題と展望	65
資料編	67

はじめに

世田谷区では、平成29年7月に「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」を策定しました。その中で、世田谷区が乳幼児期に大切にする子どもの育ちや育む力を明確にし、保護者や幼稚園、保育所等、小学校、地域など区全体が共有し、連携しながら乳幼児期における教育・保育に取り組むこととしました。ビジョンでは、基本方針の一つとして、幼稚園、保育所等、小学校の連携を掲げ、乳幼児期における教育・保育と小学校教育の円滑な接続をめざして、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを普及・啓発していくこととしております。

また、平成30年4月に施行された「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」においては、幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものとして、「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を共通に示し、小学校教育との円滑な接続を見据えた教育・保育を求めていきます。

幼稚園・保育所等では、遊びや生活の体験を通して子どもたちが主体的に学び合いながら、小学校・中学校、そして将来につながる生きる力の基礎を育み、小学校では幼稚園・保育所等での教育・保育を十分に理解した上で、新1年生が円滑に学校生活を始められるよう様々な工夫を行い、学校全体で協力して教育活動につなげることが大切です。

世田谷区では、世田谷版アプローチ・スタートカリキュラムを平成28年度に策定し、2年間かけて公私立幼稚園・保育所、区立小学校の2つのグループでモデル実施するとともに、区立幼稚園・小学校で試行してきました。また、モデル校・園では、乳幼児教育アドバイザーの助言を受けながら、取り組んでまいりました。

今回、モデル実施等での取組み事例を示し、公私立幼稚園・保育所等、区立小学校で取り組んでいただけるように世田谷版アプローチ・スタートカリキュラムの冊子を作成しました。この冊子を、幼稚園・保育所等の教育・保育と小学校教育の円滑な接続に活かし、子どもたちの未来を生き抜くための力の育成をされることを願っています。

第1章 カリキュラムの作成にあたって

1 カリキュラム作成の背景

区では、平成29年7月に乳幼児期における教育・保育を一層充実していくために、「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」を策定しました。区では今後、ビジョンにおける「世田谷区の特色を活かした教育・保育の推進」「幼稚園・保育所（施設）・認定こども園・小学校の連携」といった5つの基本方針に基づき、質の高い乳幼児期における教育・保育の推進に向けた取組みを行っていくこととしています。

「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」を策定するにあたっての課題認識の1つとして、区の5歳児のうち、約85%が区立小学校へ就学しているということから、幼稚園・保育所等における教育・保育から小学校教育への円滑な接続を図ることが必要であるとして、アプローチ・スタートカリキュラムを検討、作成するに至りました。

検討にあたっては、学識経験者や、区立小学校長から低学年担当教員、公私立の幼稚園長、認定こども園長、保育園長等を委員とした委員会を設置し、平成28年度にカリキュラムの試行版を取りまとめたところです。

カリキュラム策定の背景にある、「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」の詳細については、以下のとおりです。

2 「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」

（1）「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」とは

世田谷区では、第2次世田谷区教育ビジョンにおいて、「就学前（幼児）教育の充実」を掲げ、幼児教育センター機能の実現に向け、検討を行ってきました。また、世田谷区子ども計画（第2期）では、「子どもを中心とした保育」を実践するための基本的な指針として、「世田谷区保育の質のガイドライン」を策定するなど、保育・幼児教育の質の向上に取り組んでいます。

世田谷区が乳幼児期に育みたい力など乳幼児期の教育・保育のあり方を明確にし、区全体で乳幼児期の教育・保育の充実に取り組むため、「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」を策定しました。

地域における育ちや学びの連続性を重視し、公私立の幼稚園と保育所等の枠組みを超えた乳幼児期における教育・保育の質の向上や乳幼児期における教

育・保育と小学校教育の円滑な接続、家庭教育の支援、家庭・地域との連携を内容とする取組みの基本的な視点を示しています。

(2) 「基本理念」

乳幼児期は、心身の発育・発達が著しく、人格の基礎が形成される時期です。

この時期の様々な経験や、大人との信頼関係の構築による基本的信頼感の形成が、生涯を通じた自己肯定感や他者への信頼感、感情を調整する力、粘り強くやりぬく力などの非認知的能力を育むことにもつながっていきます。

世田谷区のこれまでの取組みや、世田谷区子ども計画（第2期）、第2次世田谷区教育ビジョンの理念を踏まえ、子どもの権利を守ることを基本とし、特色ある取組みを進めています。

世田谷区は、子どもが様々な経験を積み重ね、興味・関心を広げながら、未来を創造するための「生きる力」の基礎を身につけていくことを目標とし、以下の基本理念を掲げています。

基本理念

区民とともに、子どもがいきいきわくわく育つまちづくりを進め、子どもが様々な経験を積み重ね、興味・関心を広げながら、「生きる力」の基礎を身につけることを目標に乳幼児期における教育・保育を行っていきます。世田谷区では、子どもたちが日々の遊びや生活のなかで、「自立と協同」「表現と共感」「健やかな心と体」「体験と意欲」「関心と探求」を育むことを通して、人を思いやり、心豊かにのびのびと生きる力を身につけていくことをめざします。

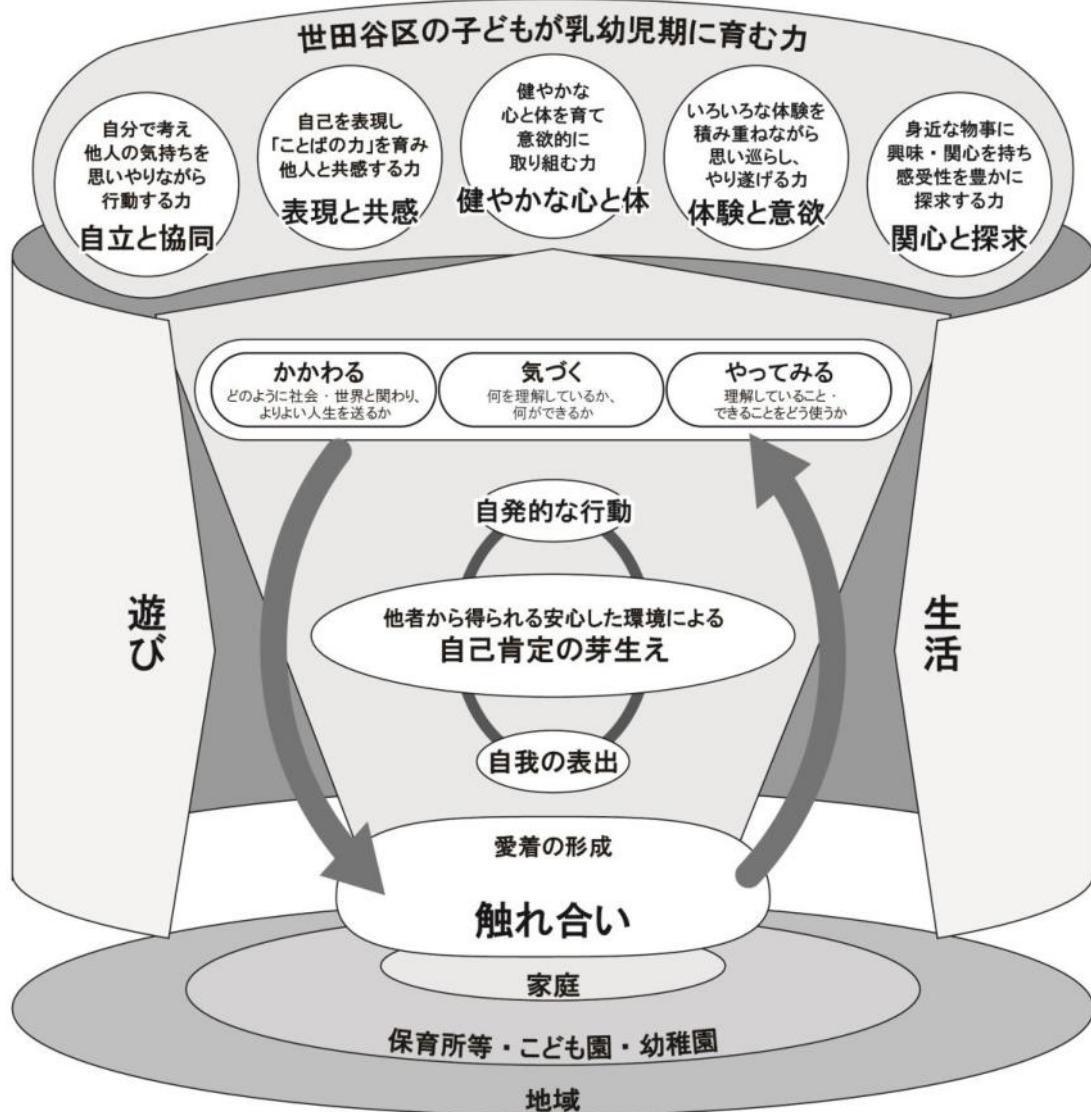
(3) 「乳幼児期に育む力」

「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」では、「幼稚園教育要領」等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、「基本理念」の中の「自立と協同」、「表現と共感」、「健やかな心と体」、「体験と意欲」、「関心と探求」を世田谷区の子どもが乳幼児期に育む力と位置づけ、乳幼児期における教育・保育を展開することとしています。

前述の「基本理念」や「乳幼児期に育む力」や子どもの育ち等を整理し、「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」においては次ページの図として整理しています。

基本理念

区民とともに、子どもがいきいきわく育つまちづくりを進め、子どもが様々な経験を積み重ね、興味・関心を広げながら、「生きる力※」の基礎を身につけることを目標に乳幼児期における教育・保育を行っていきます。世田谷区では、子どもたちが日々の遊びや生活のなかで、「自立と協同」「表現と共感」「健やかな心と体」「体験と意欲」「関心と探求」を育むことを通じて、人を思いやり、心豊かにのびのびと生きる力を身につけていくことをめざします。



「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」より抜粋

※生きる力・・・変化する社会の中で、自ら課題を見つけ、学び、考え、他人と協調し、
思いやりながら、生涯にわたって主体的に生きようとする力

(4) 取組みの方向性

「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」では、以下の5つの基本方針に基づき、乳幼児期における質の高い教育・保育の推進に向けた取組みを行うこととしています。

基本方針1 「世田谷区の特色を活かした教育・保育の推進」

世田谷区がこれまで取り組んできた「ことばの力」の育成や外遊びを一層充実するなど、世田谷区の特色を活かした取組みを進めます。

基本方針2 「乳幼児期における教育・保育の充実」

子ども一人ひとりの特性に応じ、乳幼児期における質の高い教育・保育の充実を図っていきます。

基本方針3 「保育者等の資質及び専門性の向上」

公私立幼稚園・保育所等と連携し、職員個人のみならず主体的に研修を実施する施設を支援します。

基本方針4 「幼稚園・保育所（施設）・認定こども園・小学校の連携」

幼稚園・保育所（施設）・認定こども園と小学校の連携をすすめ、円滑な接続を図っていきます。

基本方針5 「地域で見守り支える教育・保育」

家庭教育への支援を充実するとともに、地域全体で子どもを見守り、子育て家庭を支える取組みを進めます。

3 アプローチ・スタートカリキュラムの取組み

(1) アプローチ・スタートカリキュラムの位置づけ

アプローチ・スタートカリキュラムは、上記の基本方針4「幼稚園・保育所（施設）・認定こども園・小学校の連携」に基づく取組みの1つとしてとりまとめられました。

(2) カリキュラム取りまとめ後の取組み（モデル実施園・校の編成）

取りまとめたカリキュラムについては、平成28年度の末に、教育委員会として、区立小学校、幼稚園には配布し、全校・園で試行期間としました。

カリキュラムをよりよいものにブラッシュアップするべく、近隣の公私立幼稚園・保育所、そして小学校で2つのモデルグループを組み、実践いただくこととしました。

【モデル実施グループ】

- ①区立笛原小学校、区立桜丘幼稚園、私立すこやか園（保育園）
- ②区立赤堤小学校、私立あかつみ幼稚園、区立豪徳寺保育園

（3）乳幼児教育アドバイザーの取組み

そして、各モデルグループに1人、乳幼児教育アドバイザーを配置することといたしました。アドバイザーは、幼稚園・保育所等の経験者で学識経験者を対象に2名を委嘱し、平成29年11月から派遣を開始しています。アドバイザーの役割として、

- ① アプローチ・スタートカリキュラムの実施に向けた各園の疑問等を解決するため必要な助言を行う。
- ② 公私立幼稚園・保育所等における教育・保育と区立小学校教育の円滑な接続や連携のあり方について、必要な助言を行う。
- ③ アプローチ・スタートカリキュラムの検証に参加し、より有効なカリキュラムを作成するため必要な助言を行う。

と位置づけました。

アプローチ・スタートカリキュラムを公私立幼稚園・保育所等・区立小学校で本格的に実施するにあたっては、今後はモデル園・校に限らず、乳幼児教育アドバイザーを派遣するなど、より効果的なカリキュラムの実践に図ってまいります。

第2章 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とアプローチ・スタートカリキュラム

1 国の動き（学習指導要領の改訂）

平成29年3月31日に公示された新しい学習指導要領においては、資質・能力の3つの柱である「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」が偏ることなく実現されることが求められています。また、各教科等における教育目標や内容も、資質・能力の3つの柱を踏まえ再整理されました。

幼稚園教育要領の改訂においても、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱から構成される資質・能力を一体的に育むように努めることが示されています。

また、幼児期の教育を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿が、後述する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示されました。この見直しは、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領においても同様に行われています。

さらに、小学校学習指導要領第1章総則 「第2 教育課程の編成」においては、「4 学校段階等間の接続」が新設されており、「(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようすること」「生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」が示されるなど、幼児期の教育・保育と小学校教育の円滑な接続の実現に向けた記載が充実しました。

2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、幼稚園教育要領等に示されたねらい及び内容に基づく活動全体を通して、資質・能力が育まれている幼児の各幼児教育施設修了時の具体的な姿です。

幼稚園教諭、保育士、保育教諭と小学校教員が持つ5歳児修了時の姿が共有されることにより、小学校教育との接続の一層の強化が図られることが期待されています。

ただし、到達すべき目標ではないことや、個別に取り出して指導するものではないことに留意が必要です。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

※ 「幼稚園教育要領 第1章 総則」の文言を引用

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、

気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え方葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

3 「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」と「アプローチ・スタートカリキュラム」との関連

「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」では、「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を踏まえ、5つの「乳幼児期に育む力」を掲げています。この実現をめざし、アプローチカリキュラムは、小学校教育以降の「豊かな人間性」、「豊かな知力」、「健やかな身体」の育成にもつながるように、「こころ」「まなび」「からだ」の視点から編成しています。

4 学習指導要領における「スタートカリキュラム」の位置づけ

遊びや生活を通して総合的に行われる幼児期の教育・保育と教科学習を中心とした小学校教育は、内容や進め方が大きく異なります。

そこで、平成20年の「小学校学習指導要領解説生活編」の中で、学校生活への適応が図られるよう、合科的な指導を行うことなどの工夫により第1学年入学当初のカリキュラムをスタートカリキュラムとして改善することが示されました。

今回の学習指導要領の改訂においては前述のとおり、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うことが示されています。入学した子どもが、幼稚園・保育所等における遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、新しい学校生活で、小学校へと変わる環境においても、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにするため、スタートカリキュラムを充実することが求められています。



「中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 幼児教育部会における審議の取りまとめ」より抜粋

第3章 アプローチカリキュラム

1. 背 景

世田谷区では、教育基本法や学校教育法などを踏まえ、各学校の主体性を尊重しつつも、小・中学校の義務教育9年間を一体ととらえ、区立小・中学校が一体となって、質の高い義務教育の実現を図る「世田谷9年教育」に取組んできました。

「世田谷9年教育」においては、義務教育9年間を通して、「豊かな人間性」、「豊かな知力」、「健やかな身体」を育成することとし、「ことばの力」の育成をすべての教育活動の基盤に位置づけてきました。

学習指導要領や、幼稚園教育要領、保育所保育指針等の改訂を踏まえ、幼児教育と「世田谷9年教育」（義務教育）を一体的に捉える新たな枠組の展開を図っていきます。

今後も、「ことばの力」の習得と活用、および非認知的能力の育成をすべての教育活動の基盤として位置づけ、「豊かな人間性」、「豊かな知力」、「健やかな身体」の育成に取り組んでいきます。

2. 目 的

- ・小学校以降の学びに対して、幼稚園・保育所等で、見通しをもって教育・保育を行っていくことを目的とします。
- ・幼稚園・保育所等から小学校へと変わる環境に対し、子どもたち自身が小学校の生活や学習へ主体的に取り組んでいける力を身に付け、小学校入学への期待や希望をもてるよう教育・保育の活動を充実させます。

3. 特 徴

(1) 実施時期

5歳児の2学期以降の幼児が友だちといっしょに遊ぶようになる時期を対象としています。

(2) ねらい

各時期における子どもの発達の特性を踏まえて、育ってほしい子どもの姿を「ねらい」として記載しています。

(3) 大切にしたい柱

小学校以降の学びの土台となるアプローチカリキュラムにおいても、以下のように3つの柱を位置づけました。

【大切にしたい柱】

「豊かな人間性」 = 「こころ」

「豊かな知力」 = 「まなび」

「健やかな身体」 = 「からだ」

また、全ての活動の基盤として「ことばの力」を位置づけています。

(4) 小学校との連携

子どもたちが小学校入学への期待や希望をもてるようにするためには、カリキュラムを接続するのみでなく、円滑な接続を意識した幼稚園教諭や保育士、保育教諭と小学校教諭の交流や連携によって相互理解を育むとともに、5歳児が小学校の行事や交流活動へ参加等、体験の機会を創出することが大切です。カリキュラムにおいては最下段に、時期に応じた幼稚園・保育所等と小学校との連携の例を示しております。指導案の参考例を54ページに記載しています。

(5) カリキュラム表の見方

第5章にカリキュラムの実践事例を掲載しています。

これらの事例はカリキュラムモデル実施園の取組みを中心に作成しました。また、カリキュラム表の中に第5章で示す実践事例の番号を記述しましたので、指導の内容と併せて参照し、理解を深めてください。

また、小学校におけるスタートカリキュラムと視点を共有するため、後述するスタートカリキュラムにおける「にこにこタイム」「きらきらタイム」「すくすくタイム」を設け各々のカリキュラム表の中にマークで示しています。

各マークとスタートカリキュラムにおけるねらいは以下のとおりです。

マーク	スタートカリキュラムにおける位置づけ	活動の類型
	にこにこタイム	一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとする学習
	きらきらタイム	生活科の目標を意識した合科的・関連的な学習
	すくすくタイム	教科等を中心とした学習

アプローチカリキュラム表

時期		11月	12月	1月	2月	3月	
ね ら い				<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体の目的に向かって、それぞれのよさを認め合いながら取り組み、充実感を味わう。 ○共通の目的に向かって自分の力を発揮したり、互いに認め合ったりしながら、やり遂げた達成感を味わう。 ○一人ひとりが生活に目的や見通しをもち、主体的に取り組む。 ○小学生や地域の方々と関わり、親しみをもつ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○小学校生活に期待をもつ。 	
(豊 か な 人 間 性)			<ul style="list-style-type: none"> ○友達に自分の気持ちを伝えたり、友達と思いを受け入れ合ったりしながら、遊びや活動を進める。♥ 事:3・5 ○友達と共に目的をもち、感じしたことや考えを言葉で伝え合い、遊びを進める。★ 书 事:7・8 ○友達と分担したり、協力したりしながら活動を進める。★ 书 事:1・3・4・5 ○いろいろな友達と互いに教え合ったり助け合ったりしながら遊ぶ。★ 书 事:7・8 ○友達と折り合いをつけながら新しい考えに気付いたり、いろいろな考えがあることの面白さを感じたりする。★ 书 事:3・5 ○相手の気持ちを考えながら話を聞いたり話をしたりする。★ 书 事:6・7・8 ○年下の子に遊びを教えたり、一緒に遊んだりして活動することを楽しむ。♥ 事:4・5 ○自分から挨拶をしたり、お礼を言ったりする。♥ ★ 事:9 ○小学生や地域の方々と関わり、親しみをもつ。♥ 事:10 ○絵本や物語に親しみをもち、創造を豊かにして表現する。 书 事:4 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のよさや得意なことに気付き、認め合う。♥ 事:7・8 ○相手の気持ちを考えながら話を聞いたり話をしたりする。★ 书 事:6・7・8 ○年下の子に当番活動等の引継ぎを行う中で、相手の様子に気付き、優しく接したり励ましたりする。★ ○友達と役割をもって進める中で、人の役に立つ喜びを味わう。★ 			
大切 に し た い 柱 (豊 か な ま な 知 能)			<ul style="list-style-type: none"> ○遊びに必要なものを考えたり作ったりする中で、文字や数字に親しみや興味をもつ。 书 事:3・4・5 ○自分の考えが相手に分かるように話そうとする。 书 事:6・9 ○曲の雰囲気やリズムなどを感じながら、友達といろいろな歌を歌ったり、合奏したりする。♥ 书 ○いろいろな友達と互いに教え合ったり助け合ったりしながら遊ぶ。 ○絵本や物語に親しみをもち、遊びに取り入れたり表現を工夫したりする。 书 事:4 ○絵本や物語の内容、展開を想像して聞いたり、自分たちで話を作ったりする。♥ 书 ○秋から冬にかけての身近な自然の変化に気付き、遊びに取り入れる。★ 事:1・2・4 ○冬の自然や冬から春にかけての草花の生長に興味をもつ。★ ○一日や一週間の流れを理解し、見通しをもって活動を進めていくこうとする。♥ ○活動に見通しをもって、自分たちですすんで行おうとする。♥ ★ ○友達と継続して遊ぶ中で、必要なことを考えたり、伝え合ったりしようとする。 书 事:2・4・5 ○生活に見通しをもち、身の回りの整理整頓をすすんで行う。★ ○様々な素材を用いて、自分なりに工夫しながら製作することを楽しむ。★ 事:3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に共通のイメージをもって遊びの場や必要なものを工夫して作ったり描いたりする。★ 书 ○日常生活に必要な文字や数字・図形等に興味をもち、遊びの中に取り入れる。 书 事:7・8 			
(健 や か な か ら だ 身 体)			<ul style="list-style-type: none"> ○様々な運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして多様な動きに親しむ。 书 ○友達と作戦をたてたり、協力したりして、体を十分に動かして遊ぶ。♥ 书 ○友達と積極的に体を動かし、競い合ったり、ルールを作って遊んだりする。♥ 书 ○遊びのルールを自分たちで考えたり工夫したりして友達と一緒に守って遊ぶ。♥ ○手洗い・うがい等、風邪の予防が必要であることを理解し、すすんで行う。★ ○目標をもって繰り返し挑戦し、できるようになることを喜ぶ。 书 ○秋の野菜や果物を食べ、旬の食材に興味関心をもつ。★ 事:1 ○食べ物への感謝の気持ちをもち、自分からすすんでいろいろな食材を食べる。★ 				
ことば の 力			<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの課題に沿って、自分の考えを話そうとする。 书 事:1・5・9 ○相手の立場や状況を考えて、自分の考え方や思いを相手に分かるように伝える。★ 书 事:6・9 ○相手の気持ちに応じて自分なりに言葉の使い方を考え、相手が分かるように話そうとする。 ♥ 书 事:6 ○場や状況に応じた言葉を、自分なりに意識して使おうとする。 书 事:6・9 ○友達の話を最後まで聞いて理解しようとする。 ♥ 书 事:5 ○分からないことや困ったことを、誰にでも尋ねようとする。 ♥ ★ 书 事:10 ○生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かり、使おうとする。 书 事:4・9 				
小学校との 連携			<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園、保育所等で小学校や教育委員会が保育を参観するなど、情報交換をして幼児の姿を理解する。 ○小学校で開催される行事や交流活動に参加し、入学の期待がもてるようになる。♥ 事:10・13 ○幼稚園、保育所等での取組みを小学校へ伝えるなど、教職員との情報交換をして、就学先への引き継ぎを行う。 				

ス
タ
ー
ト
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム

♥★ 书 マークはスタートカリキュラムのそれぞれ♥にこにこタイム、★ きらきらタイム、书 すぐすぐタイムにつながっていく。詳細はカリキュラム別紙参照

事:●は、該当するアプローチカリキュラム実践事例の番号。実践事例については、23頁以降を参照

第4章 スタートカリキュラム

1 目的

小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所等における遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、新しい学校生活で主体的に自己を発揮していくことを目的とします。

2 特徴

(1) 実施時期

学校は安心して過ごせるところという気持ちをもち、子どもたちが主体的に自己を発揮できるように、スタートカリキュラムにおいては、「心をほぐす、学校生活に安心感をもつ」ということを全体のテーマとしました。そこで、実施時期は入学式から2週間の期間を目安としています。

(2) 3つのタイム

スタートカリキュラムを構成する活動の特徴にあわせ、3つのタイムを設けています。

にこにこタイム	一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとする学習
きらきらタイム	生活科の目標を意識した合科的・関連的な学習
すくすくタイム	教科等を中心とした学習

(3) 毎日同じ時間帯に「にこにこタイム」

「にこにこタイム」は、子どもたち一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとしています。

小学校における時間割の中で、これをどのように取り入れるか。世田谷区では、子どもたちが安心感を抱いたまま、その後の学習に臨めるように「毎日同じ時間帯」に、それも1, 2校時目といった早い時間帯に入れています。

また、状況に応じて、1校時目はクラス単位、2校時目は学年単位といった形で、活動の範囲を段階的に広げると、子どもたちの人間関係の広がりも期待できます。

(4) スタートカリキュラム表の活用について

3つのポイントについて具体例を示しながら、「スタートカリキュラム表」の特徴を生かしたカリキュラムの実施をお願いするものとしています。

- ①安心感をもって過ごすための配慮
- ②学校ごとのアレンジ
- ③学校全体で共通理解したカリキュラムの実施

スタートカリキュラムの目的

子どもの発達特性を踏まえ、環境が大きく変わることに、適応していくける力を身に付ける。小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所等における遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、新しい学校生活で主体的に自己を発揮できるようにする。

(1) 安心感をもって過ごすための配慮

- 「各週のねらい」を踏まえ、子どもが安心感をもって、小学校生活を過ごせるようにしてください。
- 子どもが明るく自信をもって、主体的な行動ができるよう、幼稚園や保育所等で経験したことを引き出しながら、指導してください。一方、環境の変化から生まれる迷いや不安等もあるので、一人ひとりの子どもに対して、十分配慮してください。

例①：朝の準備や、給食前の手洗いや準備、歌や手遊びなど、教師がやり方をすべて指示するのではなく、子どもたちが経験し、できることを確認して、まかせる。

例②：登校時の朝の準備は、板書したり、カードなどを掲示したりして、視覚的に理解しやすくする。**(実践事例14：63頁参照)**

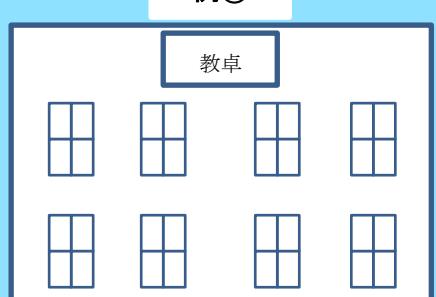
例③：手伝いの6年生に対して、できることは自分でさせるようにし、できたことをほめるように事前指導をする。

- 教師と子ども、また、子ども同士の直接的な関わりをもてるような活動を意図的に取り入れ、子どもたちの人間関係が広がるよう配慮してください。
(実践事例14：64頁参照)

例①：学級の子ども同士の直接的な関わりを促すため、4人グループの席などで座る。

例②：朝の時間等に、リズム遊びやゲームで先生や友達とのスキンシップを多くもつ。

例①



(2) 学校ごとのアレンジ（弾力的な取組）

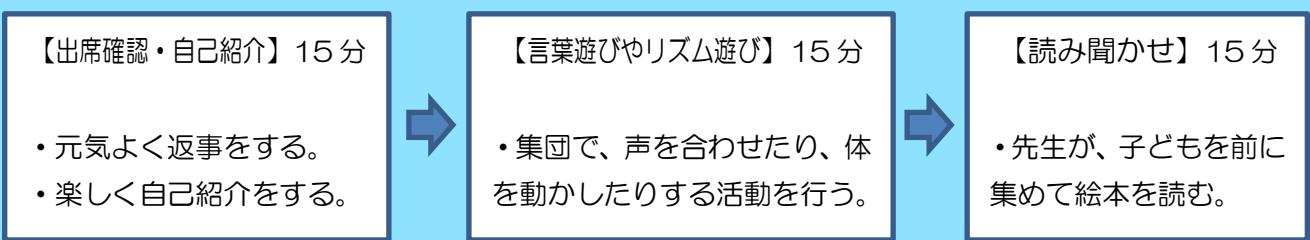
- スタートカリキュラム表を参考に、各学校の状況に応じたスタートカリキュラムを作成し、実施してください。その際、子どもたちが先生や友達に親しみ、安心感をもって学校生活を楽しめるように工夫してください。（実践事例12：6359頁参照）

スタートカリキュラム表は2週間を提示していますが、3、4週間実施することや活動内容の追加等、各学校の実態に応じて実施することも効果的です。

- 45分間を一コマとして、一つの教科を実施するだけでなく、短時間ごと複数の活動を行うなど、子どもの集中力や活動内容等に応じて弾力的に実施してください。
(実践事例11：616357頁参照)

例①：朝の会から1校時の時間を合わせて弾力的に実施する。

例②：個→集団という流れで短時間ずつ活動内容を変えながら実施する。



(3) 学校全体で共通理解したカリキュラムの実施

- 各学校に応じた工夫や、学年間の交流等にもつながることから、1年生からスムーズに学校生活になれるために、学年全体・学校全体として共通理解を図ってください。
- 【（にこにこタイム）学年での活動】において、校庭・体育館・学年のスペースなどの施設利用については、学校全体で調整するなどの配慮をしてください。

スタートカリキュラム表

※各学校の状況に応じてアレンジし、子どもたちが先生や友達に親しみ、安心感をもって学校生活を楽しめるように工夫してください。

♥にこにこタイム (一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習) ★きらきらタイム (生活科の目標を意識した合科的・関連的な学習) 书くすくタイム (教科等を中心とした学習)

週単位で考えれる

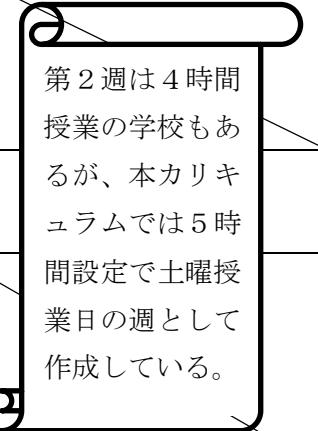
4月 第1週 今週のねらい 【心をほぐす、学校生活に安心感をもつ】※45分で一教科を行うのではなく、1コマに3つぐらいの活動を入れる。

- ・学校は安心して過ごせるところという気持ちをもつ。
- ・教師との一对の関係やスキンシップを大切に信頼関係を築きながら、学校生活に安心感をもつ。
- ・幼稚園や保育所等でやってきたことを思い出しながら、「できる」という気持ちや安心感をもって過ごす。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
 安心の柱					
登校後～	<ul style="list-style-type: none"> ・反対と関わりながら、好きな遊びをして過ごす。 ・担任と上級生（6年生）と一緒に朝の支度をする。（靴を履き替える、ランドセルを片付ける、トイレに行くなど） *「荷物の整理の仕方」を絵や写真等で分かりやすく掲示する。 事:14 				
朝の会 1校時	<p> [にこにこタイム] 一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習 【(例) 音楽1 国語2 学活1】</p> <p>※必ずしも椅子に座っての活動に限定しない。 ※空き教室等、広いスペースを使う活動 ※名前を呼ばれたら返事をして先生と握手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会（あいさつ、健康観察、今日の予定） ※4人1グループの班で座る。 事:14 ※手遊びやリズム体操など 事:11 ・みんなとなかよくなろう <p style="background-color: #C0F0C0; text-align: center;">クラスでの活動</p> <p>例) 音楽「幼稚園・保育所等で習った歌」 学活「グーチョキパー（手遊び・ゲーム）」 国語「おはなししかせて（読み聞かせ）」（先生の周りに集まって） 教科「日本語」ことば遊びとして「わらべうた」「しりとりあそび」「早口ことば」「ことばのリレー」など皆で声を出す活動を行う。</p>				
2校時	<p> [にこにこタイム] 一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習 【(例) 国語2 体育1 算数1】</p> <p style="background-color: #C0F0C0; text-align: center;">クラス・学年での活動 校庭・体育館・学年のスペースなど</p> <p>（状況に応じて、1校時目はクラス単位、2校時目は学年単位といった形で活動の範囲を段階的に広げると、子どもたちの人間関係の広がりが期待できる。）</p> <p>例) ・みんなで校庭をさんぼする ・固定遊具を使って遊ぶ活動 ・教室でゲームをする ・手遊び・リズム体操・ボールを使って体を動かす活動など</p> <p>※担任は児童が反対と関わり合って遊ぶ様子から児童理解に努める。</p>				
中休み	<p>“1年生を迎える会”までは、教室で静かに過ごす。（遊び場を見学し、各遊び場での約束事を知らせたり、他学年の遊びの様子を見たりする。）</p> <p>例) 絵本、折り紙など ※学校の実態に応じて、校庭に出られる条件があれば外遊びも可能</p>				
3校時	<p> [きらきらタイム] 生活科の目標を意識した、活動や体験を中心とした学習を行う学習 事:11 【(例) 生活1 学活1 国語1 体育1 (余剰)】</p> <p>例) 生活 「学校ミニたんけん」水道や靴箱、傘立て、保健室や職員室等、関わりの深い場所 国語「はきはきあいさつ」あいさつ、返事、話の聴き方 学活 「1年生になったよ」教室、座席、靴箱、ロッカーの場所を覚える。 「じぶんでチャレンジ」連絡袋の使い方、手紙の配り方、名札の付け方</p>				
4校時	<p> 学活「1年生になったよ」 担任の自己紹介 配布物などの確認 (保護者と共に使う)</p> <p> [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 ・学級活動「安全な下校」 登下校のきまりを知ろう。 通学路の歩き方</p> <p> [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 ・国語「わたしのなまえ」 自分の名前を言う。 名刺に名前を書く。</p> <p> [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 ・生活「ともだちいっぱい」 自分の名前を書いた名刺を使って自己紹介をする。</p> <p> [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 ・体育「みんなでならばう」 体育着の着替え方を知ろう。 名前順の並び方をしてみよう。</p>				
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・きらきらタイム（「今日の褒め」、クラス全体と個人） ・宿題の確認（大きな声で自己紹介、しりとり20個など簡単なもの） ・集団下校のため、決まった並び方で手をつないで移動（下校） ・起立→一気を付け→さよならの習慣付け 				
給食					
備考 一日の中で最も大切なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な自己紹介 (呼名されたら担任と握手) ・登校が楽しくなるような宿題 (「いってきます」をおうちの人人に言おう。) を帰りの会で出す。 ・さよならジャンケン 勝って帰る、または作戦を練るという満足感や充実感を味わうことで「明日も学校に来よう」という気持ちをもてるようになる。 ・歌を歌う際には、「住所が○○の人だけ」や「青い服の人だけ」など、ゲームを取り入れながら楽しく歌えるよう工夫する。 ・宿題は、登校したときに役に立つような「名札の付け方」や「傘のたたみ方」など、一人でもできるようになってほしいことにする。 				
<p style="background-color: #FFFACD; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">ことばの力</p> <p>教科「日本語」の時間 1週1時間（年間34時間） 第1週はことばの響きやリズムが楽しめる活動を設定する。</p>					

集計 18時間

週単位で考えれる

4月 第2週 今週のねらい【心をほぐす、学校生活に安心感をもつ】45分で一教科を行うのではなく、1コマに3つぐらいの活動を入れる。							
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	
 安心の柱							
登校後～	・友達と関わりながら、好きな遊びをして過ごす。 ・上級生（6年生）や友達と一緒に朝の支度をする。上級生や担任は不安感が強い1年生に中心的に関わる。						
朝の会 1校時	 [にこにこタイム] 一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習 ※必ずしも椅子に座っての活動に限定しない。 ※空き教室等、広いスペースを使う活動 ※手遊びやゲーム、リズム体操 ※4人1グループ班で座る ・朝の会（あいさつ、健康観察、今日の予定） ※担任との信頼関係が築けるようにスキンシップができる活動 など ・みんなとなかよくなろう 例) 音楽「どきどきどん1年生」 学活「おちやらか ホイ（手遊び・ゲーム）」 ※友達同士、班同士のゲームを増やしていく。 国語「おはなししきかせて（読み聞かせ）」（先生の周りに集まって）	クラスでの活動					
2校時	 [にこにこタイム] 一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習 クラス・学年での活動 校庭・体育館・学年のスペースなど (状況に応じて、1校時目はクラス単位、2校時目は学年単位といった形で活動の範囲を段階的に広げると、子どもたちの人間関係の広がりが期待できる。) 例) ・手遊び、リズム体操、生き物とのふれあい ・ジャンケン握手、ジャンケン肩たたき、ジャンケンあいさつ、ジャンケン列車、ジャンケン自己紹介、ジャンケン質問 ・猛獣狩り、ドッジボール、サッカーゲーム、大縄跳びなど ※担任は児童の好きなこと、特性や人との関わり方など、児童理解に努める。						
中休み	(6日目) 遊具の安全な遊び方を覚えよう。(遊具を中心に学年で分担して児童の安全を確保する。) (7日目) 体育館での安全な遊び方を覚えよう。 (8日目) 校庭での安全な遊び方を覚えよう。 (9日目以降) クラス遊びを適宜入れながら、一人ひとりの安心感や新しい人間関係が築けるようにしていく。						
3校時	 [きらきらタイム] 生活科の目標を意識した、活動や体験を中心とした学習を行なう学習 例) ・生活「はるをみつけよう」カードに絵をかく。 「ともだちいっぱい」 自己紹介用の名刺づくり 「学校たんけん」探検したいところを話し合う。 ・体育「体ほぐし運動」 リズム太鼓のリズムで体を動かす。 「動物に歩き」						
4校時	 [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 学級活動「学校のやくそく」 学校の約束を知る。	 [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 国語「おはなししきかせて」 お話の好きなところを発表する。	 [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 国語「みつけたみつけた」 絵を見て、見つけたことや思ったことを話す。	 [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 音楽「うたでなかよし」 友達と歌に合わせて体を動かす。 1年生を迎える会の歌や校歌を歌う。	 [すくすくタイム] 教科等を中心とした学習 算数「10までのかけ算」「1」「2」の意味と読み方、書き方を理解する。	 第2週は4時間授業の学校もあるが、本カリキュラムでは5時間設定で土曜授業日の週として作成している。	
給食	・手洗い、うがい、準備の順番の徹底 ・準備、片付けの準備を学年で共通にする。(黒板に掲示)	・最初は少なめの量で配膳する。(完食する達成感を味わえるようにする。) ・「モグモグタイム」5分(食べることに集中する。)					
5校時	 [すくすくタイム] 学活「じょうずなそうじ」 雑巾の使い方、ほうき、ちりとりの使い方を知る。	 [すくすくタイム] 教科「日本語」「ふうけい」 春などの季節を話し合う。	 [すくすくタイム] 算数「どうぶつたんけん」 1対1の対応によって、多い、少ない、同じなどの言葉を使い二つの集合の大きさを比べる。	 [すくすくタイム] 国語「ひらがな」 ひらがなノートの使い方ひらがなの練習	 [すくすくタイム] 国語「くちのたいそう」 「あいうえお」の口形に気を付けてはっきり声を出す。		
帰りの会	・第1週に同じ 読み聞かせなど、言語力を高める活動（「のはらうた」など）						
備考 一日の中で最も大切にしたいこと	・第2週の始まりが楽しい1日になるように、 [にこにこタイム] や [きらきらタイム] で皆で楽しめる活動を意識して多く取り入れる。	・国語では 担任との距離を近くして 、児童の様子を見ながらゆっくり読み聞かせをする。 ・国語「ひらがな」では、 实物投影機 で上手な文字を紹介する。「くちのたいそう」では、 タブレット型パソコン で撮影した後に皆で見るようするなど工夫する。 ・教科「日本語」「ふうけい」では、グループで読んだり、列で読んだりするなど、様々な読み方を工夫し、 皆で声を出す活動を楽しめるようにする。 ・音楽「うたでなかよし」では、 友達同士で聴き合って歌ったり、体の動かし方を提案したりできるようにする。 ・ 生活科や図画工作で描いた絵は、すぐに教室に掲示すると子どもたちはうれしい気持ちになるようにする。 ・ 一斉活動と一緒に参加できない児童のために、教室内に落ち着ける居場所を作る等の配慮をし、個別に対応ができるようにする。	集計 20～28時間				

ことばの力

教科「日本語」の時間 1週1時間（年間34時間） 第2週も引き続き、皆で声を出す活動等でことば遊びの楽しめる活動を設定する。

第5章 アプローチ・スタートカリキュラムの実践事例

第5章では、カリキュラムを踏まえた実践事例を、カリキュラムモデル実施園・校の取組みを中心に掲載いたします。

※事例において、幼稚園や保育所における幼児・園児は「子ども」、小学校においては「児童」という表現にしています。

実践事例 1	子ども達と育て方を考え、身近で感じる食育	25
	～サツマイモができるまで～	
実践事例 2	生き物との出会いと学び合い～みてみて！みつけたよ～	27
実践事例 3	社会のしくみを知り、友達との関わりを楽しんだ ～お店屋さんごっこ～	30
実践事例 4	友達と共に目的をもち、感じたことや考えを言葉で伝え合い、 遊びを進める～どんぐりケーキ屋さん～	33
実践事例 5	共通の目的に向かって友達と考えを出し合ってやり遂げた喜び や充実感を感じる ～『わくわく動物ランド』を作って遊ぼう～	36
実践事例 6	相手の気持ちを考えながら話を聞いたり話したりする ～とげとげ言葉とふわふわ言葉～	40
実践事例 7	日常生活に必要な文字や数字に興味をもち、進んで使おうとする。 ～郵便屋さんごっこ～	42
実践事例 8	友達と一緒に共通のイメージを持って工夫する～街作り～	45
実践事例 9	言葉で伝え合う喜びを感じたり、自信をもてたりした ～司会・あいさつ隊・当番活動～	48
実践事例 10	小学生に信頼・憧れの気持ち、就学への期待をもつ ～幼児と児童との継続的な交流～	51
実践事例 11	45分3分割（短時間ごと複数の活動）の実践	56
	(☆きらきらタイム)	
実践事例 12	朝の読み聞かせで、楽しい一日を始めよう！ (♥すくすくタイム)	58
実践事例 13	保幼小交流の実践事例	60
実践事例 14	スタートカリキュラムの実践事例	62

実践事例1 子ども達と育て方を考え、身近で感じる食育～サツマイモができるまで～**○ねらい**

- ・土や植物に触れ、水やりなどの世話を通して生長を感じる。
- ・栽培を通して、植物に興味をもったり、収穫を喜ぶ。
- ・植物を育てる為には何が必要か、どのような世話をするのか、保育者や友だちと調べたり、考えたりする面白さを知る。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・“サツマイモを育てよう！”と決めたきっかけは、保育者の興味からそこから子ども達も興味をもち、保育室前のスペースをサツマイモ畠にすることにした。
- ・土を耕し、“サツマイモを育てる為には何が必要か？”を子ども達が調べ、ホームセンターへ行き、土や苗を購入し、育て始めた。

○子どもの姿

- ・土を耕すところから子ども達の手で行った。深く掘ると土が湿って固くなり、耕すことが大変になることや、土が重くなることを知った。
- ・耕している最中は、手や服が泥だらけになることは気にせず、真剣な眼差しであった。興味をもったことに対する子ども達の集中力は非常に高かった。
- ・どんどん伸びるツルは目で生長が確認できるが「サツマイモってどこにできるの」「どうなったらできあがり？」など土の中のことには不思議がいっぱいのようだった。
- ・11月になり、いよいよ収穫することにした。
ツルをかき分け掘ってみると…「でてきたー！」「〇〇くんのほうがおおきいね」「かおぐらい！」「においはあんまりしない」「いろは、ちやいろ？むらさきかな？」など、驚きと嬉しさがたくさんの子ども達の姿が見られた。
- ・収穫したサツマイモは、子ども達が絵本からヒントを得て、厨房の先生と一緒に“サツマイモのパンケーキ”を作ることに決定した。
- ・ツルは、クリスマスのリースに変身させた。長いツルをリースの形に整えることに苦労していたが、世界に一つだけのリースが出来上がった。



○保育者の援助のポイント

- ・サツマイモを育てることが決まり、育てる場所を保育室から続くウッドデッキの一角の植え込みに決定した。日々、目の前でサツマイモの生長を肌で感じる環境を作り、土の耕しや肥料の購入も子ども達と一緒に行った。
- ・“サツマイモを育てる”というきっかけ作りは保育者が行った。子ども達が興味をもってからは“育てるためにはどうしたら良いのか？”ということを子ども達自ら考えたり、相談したりするようになる。思いを実現するためにはどうしたら良いのかを一緒に考え、実際に買い物に行ったりすることで、子ども達がサツマイモを育てることに主体的に関わっていく様子が見られた。
- ・子ども達の興味・関心に合わせて、図書館に育て方の本を借りに行く、一緒に調べるなどの支援を行い、子ども達の興味がさらに引き出されるように関わっていった。また、友だち同士で考えを出し合い協力して育てていくことで“自分達で育てている”という喜びや、友だちと協力する、楽しさを味わう経験を積めるようにした。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・土をどのように耕すのか、育てる為にはどんな肥料が必要なのか等の相談や日々の世話を友だちや保育者と協力し合いながら行う。【協同性】【思考力の芽生え】
- ・生長の過程を友だちや保育者と喜び合う。【自然との関わり・生命尊重】
- ・収穫の喜びを味わい、収穫したサツマイモをどのように調理するかを友だち、保育者、厨房の職員と相談し、調理して味わったり低年齢のクラスに振る舞ったりすることを楽しむ。
【協同性】【思考力の芽生え】【言葉による伝え合い】【社会生活との関わり】
- ・自分と友だちが収穫したサツマイモの数や、重さ、大きさの違いに気付く。
【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

○振り返り



- ・水やりなどのサツマイモの世話を保育者が楽しそうに率先してやることで、子ども達もサツマイモの生長に興味をもち、一緒に世話をしたり「ツルが長くなってきたね」と一緒に生長を喜んだりして、初めは興味を示さなかった子どもも、自然と興味をもつことができた。
- ・栽培する場所は、目の前で生長を感じられる場を選択したことでの子どもの興味が持続した。

実践事例2 生き物との出会いと学び合い～みてみて！みつけたよ～

○ねらい

- ・自分の考えを伝えたり、友達の考え方を受け入れたりしながら、自分たちで遊びを進める楽しさを味わう。
- ・秋の自然に触れたり、遊びに取り入れたりして、秋の自然に親しむ。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・昼食後、クラスで球根を植えるための土作りに取り組み、土の感触や土の中の虫をみつけるなどして楽しむ。好きな遊びの時間に、普段から虫探しの場となっている園庭の芝部分で10月頃より虫探しに興味をもち始めたA児がカマキリをみつける。園庭は、子どもが自然物に触れ、様々な体験をすることができるよう、季節に応じた栽培物を育て、虫などの身近な生き物に出会えるような環境を日常的に整備している。

○子どもの姿

- ・A児はカマキリをみつけると、「カマキリを見たい人！」と園庭の子どもに知らせる。同じクラスのB児、C児や年少児、保育者らがカマキリを見たり、触れたりする。B児「ここに入れて」と手押し車を持ってきて、A児、B児、C児を中心に台車に芝を入れ、カマキリが過ごしやすい場を作る。



- ・「バッタを探そう」とB児はエサとなる虫探しを提案したり、チョウチョが側を通ると追いかけて捕まえようしたりする。B児とC児は「カマキリって、バッタを食べるんだよ」、「カマキリって飛ぶんだよ」「知っているよ、ぼくは飛んだところみたことある」、「夜になると、黒い目が光るんだよ」「そうそう」と自分の知っていることを話したりし、A児も真剣に2人の話を聞いている。保育者が「カマキリの足の数は何本だろう」と言うと、B児は2本、A児は4本と答えるが、C児を中心に数えてみると「わあ、6本だ」と足の数に気付く。その後も「この口のモシャモシャってしているの何？」とB児が不思議に思うので、保育者が「本当だね、何だろう？」と聞くと「歯じゃない?」、「お腹が細いからオスだよ」など、カマキリの様子を細かく見ながら、会話が続いている。
- ・片付けの時間となり、A児が「虫かごに入れたい」と虫かごを持ってきて、カマキリを移動する。エサとなる虫がみつからず、A児、B児、C児は公園や家でみつけてくることになり、側にいた友達にも虫を探してくるよう頼んでいる。

- ・保育者がクラスの皆さんにも伝えることを提案すると、降園時に皆の前で伝え、クラスの友達も「わかった、今日探してみる」など、関心が広がっていく。

○保育者の援助のポイント

- ・子ども自身が体験していることをクラスの友達へ伝える機会をつくり、自分の言葉で表現できるようにするとともに、他の子どもへの興味・関心の広がりにつなげる。また、様々な考えに触れる機会となるようにする。
- ・子どもがカマキリに実際に見たり触れたりする中で、自分の知っていることや考えたことを友達に伝えられるように、教師は伝え合いの様子ができる限り見守るようにした。しかし、カマキリの足の本数など、必要に応じて子どもに投げかけるようにした。
- ・本事例の前にも、虫探しや虫を飼育した経験がある。虫を飼育するためには、生息していた場と同じような環境を整えること、餌が必要なことなどに気付くことができるよう、関わってきた。
- ・普段友達に頼ることが多いC児であるが、虫への関心が高く、知識も豊富なため、自信をもって友達と関わる姿や皆の前で話をする姿が見られた。個々の子どもの興味・関心、良さを生かせるよう、子どもが自由に遊びを選択できること、時間の確保、環境が整えられていることが大切である。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・カマキリが生きていくことができるよう、友達と一緒に芝を集めて場を整える姿や、餌の必要性を感じ、一生懸命を探す。【協同性】【自然との関わり・生命尊重】
- ・実際にカマキリに触れ、間近で見ながらカマキリの足の数や顔の形、色などに気付く。【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】
- ・「お腹が細いからオスだよ」という「○○だから□□だ」という論理的な思考が養われている。【思考力の芽生え】
- ・カマキリを見つけたことを伝えたい、エサを探したいなどの思いから、夢中になって園庭を駆け巡る。【健康な心と体】【自然との関わり・生命尊重】
- ・自分の知識や気付いたことなどを、友達に伝えたいという意欲をもち、友達の話も関心をもって聞き、自分なりに考える。友達と伝え合う楽しさや喜びを味わう。【言葉による伝え合い】

○振り返り

- ・カマキリとの出会いを通して、子どもの気持ちが動かされ、感動したり、友達との活発な言葉による伝え合いを楽しんだりする姿が見られた。子どもが自ら身近な環境に関わり、様々な経験を積み重ねることができるよう、環境を整えることが大切である。
- ・保育者は、友達同士で言葉で伝え合う姿を見守り、その思いに共感を示したり、保育者自身の発見や気付いたことなどを伝えたりするようにした。自分たちで遊びを進め、学び合う楽しさを感じることにつながった。
- ・それぞれの遊びをクラスで情報を共有する機会を作り、様々なことへ関心をもったり、皆で考えたりすることができるようとした。このような経験が学びの広がりへつながっていくのではないか。



実践事例3 社会のしくみを知り、友達との関わりを楽しんだ～お店屋さんごっこ～

○ねらい

- ・様々な素材を用いて、自分なりに工夫しながら製作することを楽しむ。
- ・異年齢児との関わりを楽しむ中で、自分の役割を分かり、協同して取り組む。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・廃材や自然素材を使った製作遊びや役割を決めたごっこ遊びを好んでしていた。
- ・どの素材をどう使用するか、子ども同士で話し合い、協力しながら製作していた。
- ・手作りのレジやお金、自分専用のお財布を用意し、雰囲気作りをした。
- ・お店で販売する商品を製作するために必要な廃材や画用紙、折り紙や紙テープなどを用意した。また、ハサミやのり、セロテープなどの製作に必要な道具も用意した。

○子どもの姿

- ・11月に幼稚園全体で行う「お店屋さんごっこ」に向か、10月中旬より準備を始めた。各クラスで違うお店屋さんに対することを決め、Aクラスは「時計屋さん」を行うことになった。
- ・時計にはどのような種類があるかをクラスで意見を出し合ったり、園内探検を行い園内にある時計の観察を行ったりする中で、製作してみたい時計を決めた。家庭にある時計をよく観察してきたA児がキャラクターの時計を作りたいと提案したり、B児が園で見た鳩時計を作りたいと提案したりした。C児はクラス名にもある星をモチーフにした時計を作りたいと提案した。案が出た後、どのようにすれば作ることができるのかを5~6人のグループに分かれて話し合い、グループごとに発表する機会を設けた。

- ・折り紙が得意なA児が、自分で腕時計を製作し、装着して遊んでいた。その様子を見たB児が文字盤を付けることを提案し、画用紙を切り、鉛筆で数字を書いてのりで貼りつけた。B児はA児の腕時計が完成すると、自分も作りたいと、A児に教わりながら製作した。A児とB児が完成品を満足そうに装着して遊ぶ姿を見て、他児も作り方を教えてほしいと言って、みんなで作り始めた。A児とB児は、みんなに教える先生役になっていて、誇らしそうにしていた。
- ・牛乳パックをちぎり紙で装飾した置時計を作る事になり、5人グループで1つの時計を作った。Aグループは、最初に全員で紙をちぎり、全てがちぎり終わってから全員で貼り付けた。Bグループは、ちぎる役と貼り付ける役を分けて行った。Cグループは、折り紙をそのまま貼ってしまうD児に対して、他児がちぎってから貼ることが正しいと主張して話し合いとなつた。



その結果、途中からちぎって貼ることになり、1番最後まで時間がかかった。

- ・紙テープでバネを製作することが好きなE児が、時計にも使えないかと考えていた。周囲の様子を伺ったり、紙テープのバネの特性を色々と試したりし、腕時計のベルト、壁掛け時計の取っ手や飾り、カラクリ時計の飛び出す仕掛けの部分など、様々な使い方をした。



○保育者の援助のポイント

- ・時計の種類を挙げていく中で、園内にはどこに時計があり、どのような色や形をしているかを質問し、子ども達に疑問をもたせるように促し、自主的に観察に行きたいという提案が出るようとした。
- ・製作方法についての話し合いは、一人ひとりが考えたり、意見を出せるように少人数で行うようにしたりした。また、発表する機会を設けたことで、クラス全員で共有できるようにした。
- ・A児とB児の様子を見て、他児にも聞こえるように2人に腕時計について質問し、「凄いね」と褒めた。どうやって作ったのか、誰が考えたのかを聞き、他児にもその情報を共有した。
- ・D児がそのまま折り紙を貼ってしまったことに対し、Cグループの全員で間違っていると主張していた様子があったため、D児の意見も聞いてみるように促したことで話し合いになった。正しいちぎりの方法で行いたかった他児とD児なりの考えがぶつかる場面になったが、その後は個々が勝手に進める様子はなくなった。
- ・E児が悩んでいる様子を理解していたが、周囲を観察しながら自分で考えを巡らせている姿だったので、あえて言葉を掛けず見守った。また、他児との関わりの中で、バネの特性に触れ、E児が自分でその特性に気付けるように促した。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・時計の種類について話し合い、園内の時計の観察をして、気付きや発見を話し合う。
【社会生活との関わり】【言葉による伝え合い】【思考力の芽生え】
- ・B児が時計には文字盤があることに気付き、鉛筆で数字を書く。
【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】
- ・B児がA児に教わりながら腕時計を製作したり、A児やB児が他児の先生となって教えたりする過程では、自分の知っている知識を伝え、それを受け止める。
【協同性】【言葉による伝え合い】
- ・Cグループは、折り紙をそのまま貼ってしまうD児に対して、他児がちぎってから貼ることが正しいと主張して話し合いとなり、その結果、途中からちぎって貼ることになり、協同して進める。
【道徳性・規範意識の芽生え】【豊かな感性と表現】【協同性】
- ・紙テープのバネを創意工夫して、試行錯誤する。
【自立心】【思考力の芽生え】【豊かな感性と表現】

○振り返り



- ・話し合いながら、友達と協力して行う場面が多かったことで、以前よりも相手の話を聞こうとする態度や自分の思いの伝え方が良くなつたと感じた。
- ・日常保育の中での子どもの様子をしっかりと把握し、行事や活動に上手く取り入れていくことが大切であると感じた。

実践事例4 友達と共に目的をもち、感じたことや考えを言葉で伝え合い、遊びを進める ～どんぐりケーキ屋さん～



○ねらい

- ・遊びの目的やイメージを遊んでいる仲間と共に通にしながら、自分たちで遊びを進めいく楽しさを味わう。
- ・秋の自然物に触れ、遊びに取り入れたり、いろいろな方法で表現したりすることを楽しむ。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・年長組の遠足にて、近隣の公園にドングリや松ぼっくりなどを拾いに行き、家庭に持ち帰る。後日クラスで集めて、子どもたちが見たり、触れたりして、興味がもてるよう、種類別に分類する。
- ・子どもたちが共通のイメージをもてるように、「おおきなくまさんどいちさなやまねくん もりいちばんのおともだち」(ふくざわゆみこ作 福音館書店)、「どんぐりむらのぱんやさん」(なかやみわ作 学研出版)をクラス全体で読み聞かせを行う。
- ・自分たちのイメージの実現に向けて、本物らしく作りたい欲求が出てくる時期のため、自然物と出会い、豊かな造形表現ができるような教材を工夫し、カラー紙粘土、段ボール、京花紙、ボンドなどを準備する。
- ・陽だまりのぬくもりや心地よい風など、感性豊かに、秋の自然を十分感じ取ることができるよう、外の木陰に場を設定し、また他学年の子どもとも交流できるよう、互いの遊びが見えやすいところに場を構成する。

○子どもの姿

- ・カラー紙粘土や段ボールなどに、ドングリや木の実にボンドをつけて飾り付けをして、クッキーーやケーキなど思い思いに製作する。
- ・「おいしいケーキができたよ」「たくさんできたからお店にしようよ」などと数名の子どもが集まって、お店屋さんをしようとする。「本物みたいだね」と保育者が認めると、「お客様、たくさん来るかな」と期待をもっている。



- ・クラス全体で読んだ絵本を見ながら、「こんなお店にしたいな」と話し、段ボールや透明のセロファンなどを用いて、保育者も一緒にショーケースを作る。完成を喜んで、「この中にケーキを並べようよ」「お客様に見えやすいように置こう」「看板作るね」「メニューも必要だね」「飲み物もあるといいよね」「それはいい考え。何にする?」などと、考えを出し合いながら、ケーキ屋さんを始める準備を進める。「年少さんにも来てほしいから呼んでくるね」「こっちにもお知らせを書いて見えるようにしよう」と話し、「ケーキやさんにきてください」と、紙に書き、紙を丸めて立てられるようにして貼り付け、旗のようにして掲示する。
- ・保育者「年少さんもケーキ屋さんに来られるように、外でお店を開くのはどう?」と話すと、子ども「いいね」「ここで食べられるってことにしようよ」と、外にある机や椅子、ベンチなどを組み合わせて、「森のケーキ屋さんみたいで素敵」と話しながら保育者も一緒に場を作る。
- ・お店の雰囲気や気持ちが高まるようなかわいらしい紙皿や紙コップ、本物の飲み物のように見える京花紙、トング、テーブルクロスなど子どもと一緒に準備し、三角巾やエプロンを身に着けて「いらっしゃいませ」と、お店屋さんが始まる。「何にしますか?」「お勧めはどんぐりウサギケーキです」「お金は葉っぱでもいいですよ」「葉っぱ2枚で2000円です」「ごちそうさまでした」「また来てください」とやりとりを楽しむ。翌日も「どんぐりケーキ屋さんの続きをやろう」と、同じ仲間が集まって遊びが始まり、何日も継続して楽しむ姿が見られた。

○保育者の援助のポイント

- ・年長2学期後半の時期では、友達と共に目的に向かって遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう協同的な遊びの経験が必要である。共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら遊びに取り組み、友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなる体験を重ねられるようにする。また、一人ひとりのよさが活かされるように援助をしていく。
- ・遠足や絵本など共通経験を遊びに活かしたり、園内の環境や秋の自然などに十分関わって遊んだりできるように、発達に必要な体験が得られる援助を工夫する。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・ドングリや木の実など秋の自然物に触れて製作をしたり、戸外の木陰で憩いの場を作ったりして、積極的に遊びに取り入れる。
【自然との関わり・生命尊重】【豊かな感性と表現】
- ・自分のやりたいことに向かって、意欲的に遊びに取り組む。【健康な心と体】
- ・友達同士で遊びに必要なものなど、互いに考えを出し合ったり、受け入れたりしながら工夫したり、協力したりする。【協同性】
- ・遊びの相談や、お店の人とお客様とのやりとりを楽しむ。【言葉による伝え合い】
- ・看板やお知らせ、メニューなど、人に知らせたい欲求から、文字を使ったり、書いたりして活用したり、葉っぱのお金や金額、ケーキの個数など数量に親しむ体験を重ね、文字が書けるようになった喜びや楽しさを味わう。
【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】
- ・遊びに使うものを作る中で、どのように作るとイメージや本物により近付くことができるのかを考えて、様々な素材を組み合わせたり、身近な物や用具などを活用したりして、多様な関わりを楽しむ。【思考力の芽生え】



○振り返り

- ・遠足や絵本などの共通経験を元にして、秋の自然物を取り入れながら、イメージ豊かに表現する中で、自分の思いや考えを伝え合い、友達と一緒に遊びを進めることを楽しんでいた。
- ・友達との交流やつながりが深まり、何日も継続して遊ぶ姿が見られた。自分たちの遊びとして意欲的に取り組んでいた。
- ・秋の心地よい風や落ち葉が揺れる音、陽のぬくもりが感じられる木陰の場において、遊びが展開されていたことで、より充実した遊びとなっていた。保育者が感性豊かに自然と関わり、幼児の生活や遊びに結び付けて深めていくことが大事である。



実践事例5 共通の目的に向かって友達と考えを出し合って やり遂げた喜びや充実感を感じる

～『わくわく動物ランド』を作って遊ぼう～

○ねらい

- ・共通の目的に向かって、友達と考えを出し合ったり、協力したりしながら遊びを進めいく楽しさや充実感を味わう。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・11月初旬に全園児で上野動物園へ遠足に行き、皆で様々な動物を見学した。遠足後の事後活動として、年長組はグループでの製作活動に取り組む中で、必要な経験ができるよう保育者間で話し合い、子どもたちにどのような動物ランドを作つてみたいかを投げかけ、話し合いの機会、時間をもつ。
- ・学級で3つずつの遊びが出され、『キリンの滑り台』『ジャングル探検』『動物レストラン』『コウモリのお化け屋敷』『モノレール』『動物ふれあい広場』の計6つのグループに分かれて、保育室とホール(遊戯室)の場を使い、活動を進めていくことに決まる。
- ・自分たちのイメージが実現できるように、また、友達と一緒に遊びの場や遊びに必要なものを工夫して製作できるように、段ボール、画用紙、折り紙、絵の具などの様々な素材、段ボールカッター、のり、ボンド、ガムテープなどの用具を準備し、それぞれコーナーを設ける。これまでの経験を活かして、大型積み木、キングブロック、巧技台、台車などの大型遊具も遊びに合わせて取り入れられるように、使いやすく整えておく。
- ・一日の予定表にそれぞれのグループが活動する時間を掲示したり、完成に向けて必要なことを書き出したりして、期待と見通しをもって取り組めるようにする。
- ・皆で活動を進めている意識がもてるよう、昼食前や降園前の集まりの時に、グループごとの進捗状況や活動内容などを皆に知らせたり、相談したりする機会をつくる。
- ・『わくわく動物ランド』と書いたチケットのようなものを準備し、それぞれの遊び場でハンコをもらってから遊べるように遊び方を共通にし、分かりやすくする。

○子どもの姿

- ・学級でどのような動物ランドを作つてみたいかについて話し合う。「ジャングルみたいのを作りたい」「池があつてワニが住んでいるってことは?」「いいね」「コウモリがいる洞窟も作ろうよ」「動物園で見たゾウやキリンとか、大きな動物を作つてみたいな」「公園みたいに滑り台になつたら面白いと思う」「遊園地みたいなジェットコースターもあると楽しいんじゃないかな」「レストランがあつて、食べるところもあつたら、お腹が空いてもまた遊べていいよね」「年少さんも呼んであげようよ」などと、子どもたちから様々な考えが出される。保育者は子どもの考え方を受け止めながら、やりたいことを整理し、【滑り台】【ジャングル】【レストラン】の3つの遊びのうち、子どもが自分でやりたいものを選べるようにする。1つの遊びに10名ぐらい集まる。
- ・「滑り台はこれ(巧技台)を使って作ろう」と、グループで集まって場を作る。「あまり高いと年少さんが怖いかもしないね」と助言をすると、「これぐらいの高さかな?」「いいね」などと言いながら、グループの子どもたちで一緒に協力して巧技台を組み立てる。
- ・「ゾウの滑り台? キリンの滑り台? どちらの意見もあったね」と話題を促すと、「キリンがいい人?」「ゾウがいい人?」と子ども同士がグループ内で意見を聞き、キリンに決まりそうになる。「ゾウがいいって言っていた子はどう?」と思いを確認するために尋ねる。「キリンの首から滑るってやつた方が面白いと思うから、キリンでいいよ」と話し、納得する。保育者がキリンの滑り台の作り方を尋ねると、「段ボールにキリンの模様を描いて、それをつけたらどう?」「キリンって大きいから段ボールがいっぱい必要」「ここにあるのをつなげようよ」と子どもたちが考えを出し合い、グループの友達と一緒に段ボールを開いて、ガムテープで貼り付けてつなげていく。「○○さんはガムテープを切るのが上手だよ」「どんどん渡してね」「いいよ」と協力しながらつけていく。段ボールを立てた後、「キリンの首から滑るってことはこうなってるよね?」と言ひながら、指で傾斜を示す。「ペンで描いてみる?」と提案すると、子どもが描き、段ボールカッターで切る。「ここを持っていてね」「いいよ」「順番に使おう」「ここまで切ったら次交替ね」などと声を掛け合いながら進める。
- ・翌日も、子ども同士で「模様は紙で貼ろうよ」「黄色い紙が必要」と、段ボールに接着していく。模様のことを尋ねると、「模様って四角かな? 丸かな?」「四角だよ」「丸だよ」と口々に話す。「あ、そうだ。いいことを考えた。ちょっと待つて」と一人が絵本棚から動物の図鑑を持って来て調べる。「四角だ」「じやあ」四角く茶色の紙を切つて貼ろう」「そうしよう」と子ども同士で意見がまとまり皆で製作を進める。数日かけて作り、養生ラップを使って巧技台に貼り付ける。





「キリンの口から最後出てくるようにしたら面白いよね」「それがいい」「あ、この段ボールをここに貼り付けよう」と考えが広がり、さらにキリンの顔、口、目、角などを作る。「角はどこにつける?」と一人が尋ねると、他の子どもが図鑑で見ながら「この辺だと思う」と、後ろの方に角を当ててみる。「これを受けたら完成だね」と保育者が話すと、「あともう少しだ」と皆で頑張り、「やったー! 完成だ!」と喜び、繰り返し何度も遊ぶ。

- ・年少組を招待して遊ぶ日が近付き、どんな係が必要かを話し合う。「受付がいるよね」「看板があるといい」「(遊んでいる間にやっていた)ここでジャンケンをして勝ったら通れるってことは?」「最後にありがとうございましたって言う人もいるよね」などと、必要な役を相談して順番を決めたり、『すべりだい』と文字を書いて看板を作ったりする。
- ・年少組を招待して遊ぶ日、年少組に「わくわく動物ランドに来てください」と、皆で呼びに行く。年少組が来ると、「ここに並んでください」「どうぞ」「ジャンケンして勝ったら通れますよ」などと子どもたちが進んで案内をする。滑る時は、前の人を行ってから滑るように係の子どもが安全を見たり、出口では、キリンの口から出やすいように手で支えて持ちながら、「ありがとうございました」とお礼を伝えたりしていた。「行列だったね」「たくさんお客様が来てくれて嬉しかった」と満足そうなので、「年少さん、楽しかったから、もっと遊びたいんですって」と伝えると「また明日もやろうよ」「今度はハンコを押す係がいい」などと話し、何日も遊びが継続する。



○保育者の援助のポイント

- ・年長2学期後半の時期、遠足などの共通経験を活かしながら、子ども自身が友達と一緒に協力して主体的に遊びを進めていく協同的な遊びが経験できるように、子どものペースを大事にした十分な時間と場を確保する。
- ・自分たちのイメージが実現できるように、様々な遊具や素材などを準備し、子どもたちが使いやすいように環境を構成する。
- ・子ども同士が意見を出し合っている場面では、様子を見守ったり、必要に応じて確認したりして、グループの中でイメージや目的を共通にしながら遊びを進められるように援助する。また、学級・学年全体の皆で進めているという意識が高まるように、話し合いの機会や場をもつ。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・『わくわく動物ランド』の遊びの中で、友達と進め方について相談したり、役割を分担したり、必要なものを一緒に作ったりしながら、友達と一緒に遊びを進める。
【協同性】【言葉による伝え合い】
- ・キリンの首の傾斜をどのくらいにするとよいのかを考えて描いたり、キリンの模様、顔などを図鑑で調べたりしながら製作をする。【思考力の芽生え】【豊かな感性と表現】
- ・看板に文字を書いて周りに知らせ、遊びに取り入れる。
【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】
- ・遊びの相談や、お店の人とお客の人とのやりとりを楽しむ。
【言葉による伝え合い】【思考力の芽生え】
- ・遊びの中で年少児がお客さんになり、遊び方を教えたり、年少児に楽しんでもらえたことを喜んだりして、年下の子どもに親しみの気持ちをもって関わり、自分が役に立った喜びを感じる。【社会生活との関わり】【言葉による伝え合い】

○振り返り

- ・2学期、運動会の経験を通して得た自信、友達とのつながりを土台に、これまでの遊びの経験が活かされたことで、子どもたちが主体的にグループでの製作活動を進めることができた。また、運動会後の遊びや日々の遊びの中で、年少児との関わりや交流を重ねてきたことで、親しみの気持ちが表れ、子どもから「年少さんを呼びたい」という思いが出されていた。
- ・共通の目的に向かって子ども同士が協力し合う協同的遊びは、子ども自身が自己を発揮することで、互いの思いや考えが交わり、共通の目的が生まれる。目的に向かって、分担、話し合い、工夫し合う中で力が育つという過程が大事である。



実践事例6 相手の気持ちを考えながら話を聞いたり話をしたりする

～とげとげ言葉とふわふわ言葉～



○ねらい

- ・日々の生活やあそびの中で友達との対話を楽しみ、自分の気持ちを相手に心地よい言葉で伝え合う喜びを感じる。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・就学に向けての期待や不安が複雑に入り混じって子ども達の言動として表れてくる時期であるため、身近な大人が子ども達を肯定的に受け止めていき、一人ひとりが自信をもって生活できるようにする。
- ・クラスやグループの中で話し合う機会を意図的に設け、「自分の気持ちや考えを他の人に分かるように話すことの楽しさに気付けるようにする。」

○子どもの姿

- ・1月頃から、「子どもの主体性を育む」をねらいとして、やりたいことがいつでもできるあそびのコーナーを子どもたちと共に考えて活動を始めた。
- ・ところが、就学や卒園祝い会を控えて緊張も高まつてくると、子ども達の日常会話にきつい口調での会話が聞かれるようになってきた。ある日、あそびのコーナーのテーブルで活動をしていた女児の後ろを通りうつむいてその場にいるとC児が「ねえ、通るんだからそこでよ！」ときつく言って通って行った。言われたB児は製作の手を止めうつむいてA児はハッと気が付いたようで顔色が変わり「Bちゃんごめんね。後ろを通ったかったんだ」と言い直した。A児は自分でそれほどきつく言ったつもりはなかった様子だった。保育者は、A児に「自分で言い方が悪かったことに気付いて、Bちゃんにごめんねが言えたことはとても素敵なことだと思うよ」とA児の行為を認めた。そのことをきっかけに、子どもたちに「言葉で気持ちを伝える時に気をつけると良いことって何だろうね？」と投げかけ、各児が思っていることを出し合ってみた。そこで出した意見をホワイトボードに羅列して書いていった。
- ・「友達に怒ったみたいに言われたり、大きい声で言われたりしたら怖いと思うし、もう一緒にいたくないと思う」「自分が言われて嫌な言葉は言われた人は悲しい気持ちになるし、周りで聞いている人も嫌な気持ちになる」「友達に言われてトゲトゲが刺さるような気持ちがするのはとげとげ言葉だと思う」「じゃあとげとげ言葉ではない言葉はどんなことばかなぁ？」と投げかけると「△△するといいよねって言うと良い」「。。ちゃんは～～するのが上手だねとか優しいねって言われたら嬉しいと思う」「褒められた



り優しく話しかしてもらったら嬉しい気持ちになるし、聞いている人も仲良くなりたい、知らない人でも友達になりたいと思う」「話していたら嬉しくなったり楽しい気持ちになるのは何だかフワフワして気持ち良いことだからふわふわ言葉だと思う」という言葉が聞かれた。

子ども達から出た様々な言い方をとげとげ言葉とふわふわ言葉に分類して卒園まで壁面に掲示しておき、保護者にも知らせるようにした。

○保育者の援助のポイント

- ・保育者がクラスの話し合いとして取り上げるタイミングは、子ども同士のやりとりや話の内容、子どもの姿から慎重に判断することが重要なポイントとなる。
- ・子ども同士の関わりの中で実際の場面を拾って「嫌な思いをする時ってどんな時か」「言語化できなかった子の気持ち」を皆で考えられるように「言葉について」の話し合いに持つていった。
- 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」との関連
 - ・何を言われたら嫌な気持ちになるか、嬉しい気持ちになるかを考える。
【道徳性・規範意識の芽生え】【思考力の芽生え】
 - ・考えた上で、「こういう言葉が「とげとげ言葉」「ふわふわ言葉」だと思う」と、自分の思いを伝え合う。
【言葉による伝え合い】【豊かな感性と表現】

○振り返り



- ・保育者や友達と共に生活を作り出す喜びを見出すことができ、自分たちで考えたり、決めていったりする事ことが多くなった。
- ・保育者は、子どもに対して「相手に言葉で伝えることの大切さ」を教える必要があるが、その一方で子どもの「非言語の部分の心の動き」を大切に考え、それを子どもの様子から読み取れる力をもたなくてはならない。
- ・子ども主体のクラス運営で、保育者の関わり方は重要である。今後の研究課題としていきたい。

実践事例7 日常生活に必要な文字や数字に興味をもち、進んで使おうとする。 ～郵便屋さんごっこ～

○ねらい

- ・はがきを書くことで、字や数字に興味をもち、意欲的に取り組む。
- ・郵便の仕組みに関心をもち、身近な職業に興味を抱く。
- ・手紙を書く楽しさや返事を貰う嬉しさ、気持ちを伝える喜びを感じる。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・お正月の年賀状のやりとりがあり、子どもと会話を楽しんだことや近所に郵便局があるため、子どもに身近な職業である郵便屋さんをごっこ遊びで実体験しようと考えた。
- ・二月の一ヶ月の間、各階に大型ポストを設置する。子どもたちは絵や字を書き、大型ポストに投函するシステムになっている。当番は手作りの帽子と鞄を着用し、手紙の回収、仕分け、確認のスタンプを押し、各クラスの前にあるポストに配達する。自分宛に届いた手紙は、自分用の手紙袋に入れる。

◎用意したもの：大型ポスト、各クラスのポスト、郵便屋さんの帽子、鞄
郵便屋さん用確認スタンプ、子ども用スタンプ、あいうえお表

○子どもの姿

- ・文字を書くことに関心がなかったA児は、郵便ごっこにも消極的であった。大好きな友だちから返事が返ってきたことをきっかけに手紙を貰う嬉しさに気付き、自ら書こうとする姿が見られるようになった。しかしこれまで文字の読み書きは完全ではないため、保育者に聞いてきていたり、あいうえお表を見たりして、自分なりに想いを伝えようとしていた。その後も手紙のやりとりを繰り返し、園で行っているワークブックにも積極的に取り組むようになっていった。
- ・絵が描くことが好きなB児は、最初から積極的に手紙を書く姿が見られ、仲の良い友だちと何度もやりとりをしていた。そのうち、元同じクラスの子や縦割りの小さい学年の子にも手紙を送るようになり、より交友関係が広がっていった。
- ・C児は、友だちからたくさんの手紙が来ることが嬉しい為、がむしゃらに絵を描き、その返信の枚数を増やしていた。しかし、友だちからもらう一生懸命に描いた文字や温かい言葉に刺激を受け、次第にC児も自分なりに文字を書いたり、気持ちを伝えようとしたりするようになっていった。

- ・D児は郵便屋さんの当番活動に対し、最初は面倒くさそうにしている姿があった。仲の良い友だちと一緒に楽しみながらポストからの回収やスタンプ押しなどを行う中で、徐々に主体的に活動するようになり、郵便屋さんの帽子と鞄を意気揚々と身に纏い、率先して「郵便です」の声を掛け、配達する場面まで見られるようになった。



○保育者の援助のポイント

- ・A児…なかなか手紙を書く様子がないA児に対し、元同じクラスだった仲良しの友だちに手紙を出すことを提案した。そして、A児が描いた絵の横に、保育者がA児の気持ちを文章にして書いた。宛名のところは、A児の書ける所は自力で、分からぬところは、保育者がひらがなを点線にして書いておき、なぞれるようにして援助した。
- ・C児…友だちからの手紙の枚数を増やそうとするC児に対し、友だちから来た手紙の内容を読み上げて、相手の思いを丁寧にC児に伝えた。気持ちが伝わる喜びを知らせていくことで、徐々に自らの思いも文字にする姿が見られるようになっていった。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連

- 最初は郵便屋さんごっこに関心がなかったA児が、友だちから手紙をもらうことで、次第に手紙を書こうとするようになる。【思考力の芽生え】【言葉による伝え合い】
【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】【豊かな感性と表現】
- B児はクラスの友だちだけでなく、他のクラスの友だちにも手紙を出そうとするようになる。【健康な心と体】【自立心】【協同性】【社会生活との関わり】
【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】【豊かな感性と表現】
- たくさん手紙をもらうために、がむしゃらに手紙を書き続けていたC児が、友だちからの嬉しい言葉が書かれた手紙をもらい、丁寧に書こうとするようになる。
【協同性】【道徳性・規範意識の芽生え】【思考力の芽生え】【言葉による伝え合い】
【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】
- 郵便屋さんの当番を面倒くさがっていたD児が、友だちと一緒に楽しく行う中で、主体的に行うようになる。
【自立心】【協同性】【道徳性・規範意識の芽生え】【社会生活との関わり】

○振り返り



- 他クラスとの交流も深まって社会性が広がり、気持ちを文字で伝える語彙などを学び、子どもたちに自信がついてきたように思う。
- 郵便屋さんごっこを通して、文字への関心が高まり、就学前に文字に親しむ良いきっかけになったと感じる。
- 子どもたちに身近な郵便屋さんをごっこ遊びにより経験することで、社会の仕組みを知る機会になったと感じる。

実践事例 8 友達と一緒に共通のイメージを持って工夫する~街作り~

○ねらい

様々な素材を用いて、自分のイメージを工夫して表現することを楽しむ。

友達と話し合いながら、1つの物を作り上げる達成感を味わう

○活動のきっかけと環境の構成

季節の製作で折り紙を行い、船の折り方を知ったことで、自由遊びで折り紙が流行っていた。

友達と一緒に何かをやりたいという思いが強かった。

製作で使用した画用紙の端紙がたくさんあり、何かに使えないかと考えていた。

○子どもの姿

- A児が道路を作って遊んでいた。クラスで折り紙が流行っていて、B児が家を作って横に置いた。その様子を見て、子ども達と話し合い、街作りを行うことが決まった。
- 大きな紙にみんなで街を作ることになると、C児が等身大の絵画製作をした時の約束を思い出し、「上履きを脱いでから乗るんだよ！」と他児に伝えた。
- 線路を作りたいというD児に茶色の画用紙の端紙を渡すと、D児は「どうやって作るか分かんない」と悩んでいた。E児が線路はどうなっているかを絵に描いて見せ、D児とE児がハサミで細長く切って貼りつけた。その様子を見て自分もやりたいと周りの子もハサミとのりを持って集まると、E児が画用紙を切る係とのりで貼り付ける係に振り分け、周りの子もE児の指示に従った。
- 街の中にお店屋さんを作ろうとF児が画用紙で看板を付けることを思いつくと、G児は画用紙を使って遊園地を作ると張り切り、周りの子と一緒に観覧車を作った。



・H児が浮かない顔をしていたので、どうしたのかと聞くと「家の向きを逆さまに貼ってしまった」と落ち込んでいた。道路の両サイドに建物があっても良いと思うと伝えるが、納得できずにいた。するとI児が自分も逆さまになってしまったけれど気にしているないと話し、他にもそのような建物があることを伝えた。H児は街全体を見て、自分だけが逆さまになってしまっているわけではないということに安心し、再び製作に加わった。



◦ 保育者の援助のポイント

- ・端紙を見て、それぞれが何の形に見えるかクイズをして、イメージを膨らませられるように促した。
- ・製作を始める前に、クラス全員で街作りの約束を話し合い、一人で勝手に進めない、一人一つは必ず自分の家を作る、友達と話し合いながら行うと決めた。一人ひとりがしっかりと守らないとどうなってしまうかまで話し合い、意識しながら行えるように促したことで、保育者が間に入らずに子ども主体で進めることができた。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・ A児が道路を作ったことから、学級全員による街作りに広がる。
【社会生活との関わり】【協同性】
- ・ C児が以前の経験を活かし、約束事を周囲にも伝える。
【協同性】【思考力の芽生え】【道徳性・規範意識の芽生え】
- ・ E児が線路について自分の知っている知識を伝え、D児が受け止める。
【言葉による伝え合い】
- ・ F児やG児が自由な発想で製作する。
【豊かな感性と表現】【数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚】
- ・ 落ち込んでいるH児に対して、I児が励ましたことでH児は最後までやり遂げようとする。【自立心】【言葉による伝え合い】

○振り返り



- ・子どもの発想を活かす活動を行うことで、主体的に取り組むことができた。
- ・最初に約束を話し合って決めたことで、子どもが互いに注意し合い、保育者がほとんど介入せずに完成することができた。
- ・卒園が迫ってきた2月に、クラスで1つのものを協同して作り、友達と一緒に使う楽しさを改めて感じられたように思う。

実践事例9 言葉で伝え合う喜びを感じたり、自信をもてたりした ～司会・あいさつ隊・当番活動～

○ねらい

- ・自分たちが役割をもってすすめていく中で、役に立つ喜びを感じる。
- ・運動会の司会やあいさつ隊や当番活動の意味や大切さが分かり、自信をもって司会や挨拶する。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・運動会の時に、年長組が5人～6人で、役割をもって次の競技を紹介する。
- ・あいさつ隊は、美しい日本語週間の際に、1学期は保護者、2・3学期は子どもたちがグループ毎に「たすき」を肩に掛けて、園児全員に朝の挨拶をする。
- ・弁当時の当番活動では、やかんのお茶をもらう時と返却時に職員室で挨拶をする。

○子どもの姿

・運動会の司会・・・子どもに伝えると、昨年のことをよく覚えていて、楽しみにする姿があった。役割分担を皆で話し合い、司会毎にどのような言葉を言うと相手に伝わりやすいか、どのような気持ちを相手に伝えたいかを考え合い、言葉を決めていった。

練習は、副園長が行い、頑張った子どもに、認めの言葉と褒美のシールをもらい、誇らしげであった。他の子どもにも刺激となり、一生懸命に取り組む姿が見られた。運動会では、保護者などからたくさんの拍手をもらい、さらに自信へつながった。



・あいさつ隊・・・美しい日本語週間の取組として、2学期は子どもにしてもらおうと思うと伝えると、とても楽しみにする姿があった。順番に行うことやたすきを持ち帰った子どもが翌日の当番であることを保護者にも伝え、登園時間の3分前に来てもらうようお願いした。

自分の番の日は、少し緊張する様子も見られたが、一緒に挨拶を始めると、要領も分かり、元気な声で挨拶をしたり、丁寧にお辞儀をしたり、相手に合わせて間をとったりしながら、気持ちよく挨拶をする姿が見られた。その様子を見ていた保護者が子どもたちを褒めたり、「〇〇ちゃんが嬉しそうだったね」と友達を認めたりする姿があった。感想を聞くと、「ドキドキしたけど、楽しかった」「一緒にできて嬉しかった」「たくさんの挨拶をしたから疲れた」などと言っていた。その後、保護者からは「あいさつ隊のおかげで自信がついたようで挨拶が立派で丁寧になりました」との声も聞かれた。

・弁当時の当番活動・・・年少組の2学期から当番活動は取り組んでいるが、年長組からは、グループの小やかんを職員室か保育室まで運んでいる。1学期から、学級ごとに当番の子どもが「〇〇組です。お茶をいただきます」と、挨拶をしていた。保育者が「運動会の司会やあいさつ隊の挨拶が上手にできるようになったので、11月中旬からは、一人で挨拶をしに行かれそうかしら」と投げかけると、「僕、できるよ」「一人は恥ずかしい」と子どもが答えた。最初はドキドキしたり、緊張したり、声が小さくなってしまう子どももいたが、何度か経験したりするうちに、はっきりと言えるようになってきた。とともに話すことが苦手な子どもも一人で言うことができ、自信につながった。また、近くにいた年少組の保育者に「さすが年長組、立派ですね」と認められると嬉しそうに笑う。

見ている友達が、拍手をする場面もあった。また、職員室に出入りする際に、「失礼します」「失礼しました」と言うなど、礼儀を覚える機会となった。



グループでの当番活動



年長あいさつ隊

〇〇組です、お茶
をいただきます。

失礼します



一人での当番活動

○保育者の援助のポイント

- ・子どもがやってみたいと思うような言葉掛けをしたり、一人ひとりが自信をもてるよう、児童理解に努め、意欲を十分に認めたりし、励ましていくようにする。
- ・園教職員全体で、取組についてのねらいを共通理解し、一人ひとりの自信につながるような言葉掛けをしていくようにする。
- ・保育者が、活動ごとではなく、日常の生活や遊びの経験の連続性の積み重ねを意識した上で、一人ひとりの成長を見守り援助していくことが大切である。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・それぞれの役割が分かり、自分が役に立っている喜びを感じながら進めていく。
【社会生活との関わり】
- ・相手に伝わりやすい言葉や伝えたい気持ちを考えたり、相手や状況に応じての言葉遣い、態度などを知ったりする。
【協同性】【道徳性・規範意識の芽生え】【言葉による伝え合い】

○振り返り



- ・保育者が活動の意味、経験の積み重ねを意識していくこと、一人ひとりの成長を長い目で捉えていくことが大切である。
- ・社会生活に必要な言葉は、日常の会話の伝え合いの中から育まれていく。その延長線上に、このような活動があることを再確認し、活動のみを行わないように十分な配慮が必要である。

実践事例10 小学生に信頼・憧れの気持ち、就学への期待をもつ ～幼児と児童との継続的な交流～



○ねらい

- ・1年生と一緒に遊ぶことを楽しみ、1年生に親しみや憧れの気持ちをもつ。
- ・互いの運動会の踊りの成果を見せ合い、喜びや満足感を味わう。
- ・展覧会や学校の案内をしてもらったりすることで、興味・関心を深め、就学の期待をもつ。

○活動のきっかけと環境の構成

・子どもが安心して取り組めるように幼稚園で行い、交流先の小学校の児童の班4～5名と園児3～4名でのグループを構成し固定した。互いの緊張が和らぐように手遊びを導入している。1回目(6月)の交流の反省を活かして2回目(10月)の交流も同じグループで行い、遊ぶ時間を30分から40分に延ばしたり、自分たちで遊ぶものを考え合いながら、遊ぶことが出来るように工夫したところ、名前を覚えたり、親しみがもてたりする姿が見られた。3回目(11月)に小学校の展覧会の案内、4回目(2月)の学校案内を予定している。

○子どもの姿

- ・1回目(6月)の交流では、ほとんどの子どもは、少し緊張した様子で自己紹介、手遊びをしたが、いつも遊び慣れた場で、1年生が考えてくれた砂遊びや工作など遊び始めた。子どもが「もう一回やりたいな」とつぶやくと、1年生も「じゃあもう1回やろうか」などとやりとりや笑顔が見られるようになった。中には、遊んでいる様子を見ているだけの子どももいた。



1年生が運動会で踊ったリズムを披露すると、子どもたちは「みんな揃っていて綺麗だね」などと言ったり、真似で身体を動かしながら見たりする姿があった。

- ・2回目(10月)の交流では、自己紹介をする前に、1年生から「○○ちゃんだね、覚えてるよ」と言われ、子どもも「私は一緒に砂の山を作ったのを覚えている」とお互いに緊張感がほぐれて笑顔が多く見られた。
子どもが「リレーがしたい」と言うと1年生が「折り返しリレーをしようとやり方を教えてくれて、一緒に勝敗を楽しんだ。1年生が「人数が足りないから、僕が2回走るよ」と番号の大きな順にビブスを2枚着て、1度走るとビブスを1枚脱いで、また走った。

子どもは「一人で2回走るから、誰かを探さなくていいんだ」と、その方法を理解し、早速真似ていた。また、最初は別々に巧技台を使って作っていた遊びは、1年生が「合体しようか」と提案して、「そうしよう」となり、1つの大きなアスレチックで楽しく遊ぶことができた。

前回の交流で見ているだけの子どもも仲間入りして遊ぶことができた。最後に、1年生に披露した運動会のリズムでは、「格好良くてびっくりした」「飛行機の翼みたいで綺麗だった」と褒めてもらえて、とても得意気の子どもが多く見られた。

- ・交流の後には、お礼の絵を描いたが、その時にも1年生の名前を挙げて友達になったことを喜んだり、丁寧に遊びの様子を描いたりする様子が見られた。その後の好きな遊びでは、1年生のやり方を取り入れ、リレーで人数が足りないと、2回走る子どもがビブスを2枚着て張り切って走る姿が見られた。



○保育者の援助のポイント

- ・小学校の教師と打ち合わせ会と反省会を設け、子どもたちが安心できるように、交流の場を幼稚園にしたり、活動内容や時間の再設定をしたりするなど、前回の反省を活かしていく。
- ・互いの緊張をほぐすために交流の始めに手遊びや触れ合い遊びを入れる。
- ・グループごとに互いの意見を聞き合い、自分たちで遊びを進めていかれるように、場や時間を確保する。
- ・互いの理解を深めるために、交流後に互いの感想を伝え合う振り返りの時間やお礼の絵を描くことを大切にしている。

○小学校教師の援助のポイント

- ・幼稚園教諭と綿密に打ち合わせを行う。特に園児・児童の両方にとって安全な活動が確保されているかを話し合う事は重要なポイントになる。
- ・「ゆっくり・目線を合わせて・分かりやすい言葉で話すと、園児に伝わりやすい」ことを、交流活動の前に児童と確認する。
- ・園児と笑顔で交流できるように、児童がリラックスできる環境をつくる。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・固定したグループで継続して行うことで、1年生と楽しく遊ぶことで親しみの気持ちや憧れを感じる。【社会生活との関わり】
- ・互いに自分の気持ちを伝え合い、受け入れ合いながら、遊びを進めていこうとする。【言葉による伝え合い】
- ・子どもなりに、1年生や教師の話をよく聞き、見通しをもって行動する。【健康な心と体】
- ・互いに关心を寄せ、相手の気持ちを尊重したり、折れたりして分かり合おうとする。【協同性】
- ・1年生の遊びの発想の刺激を受けて、後の自分たちの遊びに取り入れる。【思考力の芽生え】

○振り返り



- ・交流は1年生にとっても子どもにとっても互恵性のあるものとするために、教師と保育者が事前事後の話し合いを密に行い、反省を次の交流へ活かしていくことが大切である。
- ・互いの活動時のねらいを共通理解していくことが大切であり、指導案を合同で作成することがよかつた。また、環境構成や援助の方法等について交流を実施する園や学校にて、場を確認しながら打ち合わせしていくことが有効であった。

幼小交流活動 「5歳児と1年生との交流 第2回目」

1. 日時 平成30年10月5日(木)
2. 場所 桜丘幼稚園 2階ホール・園庭・2階保育室
3. 対象 小学生 1組30名 2組30名 3組29人 計89名
幼稚園 ばなな組34名 ぶどう組34名 計68名
4. ねらいと評価

【幼稚園】

ねらい

- ・1年生と一緒に遊ぶことを楽しみ、1年生に親しみや憧れの気持ちをもつ。
- ・運動会でやった踊りを1年生に見てもらうことに期待をもち、喜んで踊る。

評価

- ・1年生と一緒に遊ぶことを楽しみ、親しみや憧れの気持ちをもつことができたか。
- ・運動会でやった踊りを1年生に見てもらうことに期待をもち、喜んで踊ることができた

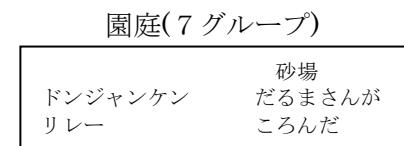
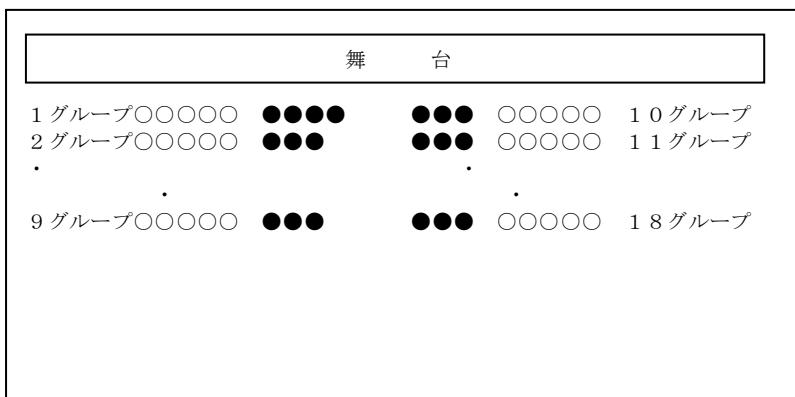
5. 展開 ●幼児 ○小学生 ☆共通

時刻	活動	教師の援助・指導	評価
9時15分	○小学校を出発する。 ○園に到着。靴を履き替えて、ホールに入り並ぶ。	●グループの名前を覚えておく。 ☆組み合わせやすいよう、前回と同じ隊形でグループの番号順に並ぶ。 ○事前にグループの幼児の名前を覚えられるようにしておく。	幼稚園・評価項目 小学校
9時30分	●2階ホールでグループごとに並んで待つ。 幼児 一クラス 9グループ 小学生 一クラス 6グループ ☆始めの会に参加する。(幼Tリード) ・1年生が始めの言葉・あいさつをする。 ・幼児「よろしくお願ひします」 ・本日の流れについて聞く(幼T) ・各グループで自己紹介をする(小Tリード) ・グループの友達と手遊びをする。(幼T) ♪手遊び ・トイレの場所を確認する。(ホール、2階保育室、園庭)	●同じグループ仲間や小学生の名前、前回の交流のことを思い出せるように話をしておき、期待をもって参加できるようにする。 ○活動の流れを説明する。 ●2回目の交流となるが、久しぶりのため、安心して参加できるよう、1年生との再会を喜んだり、一緒に楽しく遊べることや、親切に教えてくれることを知らせたりする。 ●自己紹介の難しい幼児には、教師が関わり中介していくようにする。 ●ふれあいを楽しめる内容の手遊びをする。 ☆移動の際にはぐれないよう、しっかりと手をつなぐよう知らせる。 ☆互いに安心して活動に臨めるよう、不安そうな幼児や児童に配慮し、声を掛けるなど援助する。 ☆教師同士連携をとりながら、園庭・ホール・保育室をまわり、各グループの状況を把握する。	<p>・自分の名前を伝えたり、1年生の名前を聞いて覚えたりしているか。</p> <p>・1年生に親しみをもち、一緒に遊ぶことを楽しんでいるか。</p> <p>・園児の緊張をほぐすように、やさしく声を掛けているか。</p> <p>・園児にやさしく声を掛け、一緒に活動することを楽しんでいるか。</p>

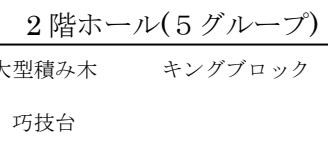
9時50分	<p>☆グループで遊ぶ。(ホール・2階保育室・園庭) (40分間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外: ドンジャンケン・だるまさんがころんだ 中当て・縄跳び・鬼ごっこ・かくれんぼ 砂遊び・固定遊具(鉄棒・ジャングルジム・ 滑り台・登り棒)など ホール: 大型積み木・キングブロック、功夫台 保育室: 折り紙・粘土・工作・中型積み木 など 	<p>☆自分たちで遊ぶ場所に行き、どのように遊ぶか考え合って楽しく遊べるようにしていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ○固定遊具が混んでいた時に、どの遊具から順に遊ぶとよいか、回りを見渡すよう声を掛けれる。 ○鬼ごっこの鬼決めをする時に、園児が慣れ親しんでいる決め方ができるよう助言する。 ○縄跳びをする時に、園児ができる技を聞いて跳ばせてあげるように助言する。 ○鬼ごっこや中当てなどで、どの程度加減してあげると互いに楽しめるのか、考える時間を確保する。 ○粘土など、園児と児童がいっしょに作品を作れるように場を設定する。 ●幼児が、小学生に自分の考えを伝えたり、話を聞いたりしている姿や、楽しんでいる様子を認めたり、見守ったりする。 ●小学生の優しさや年長らしさを園児に言葉などで知らせたりしていき、憧れや親しみの気持ちがもてるようにしていく。 <p>※雨天の場合は、塗り絵(小学校から持参)、トランプ、ひらいたくんなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児と話し合って、一緒に遊びを工夫することができているか。 ・園児と関わる楽しさを感じて、進んでふれあっているか。 ・1年生に自分の考えを伝えたり、話を聞いたりすることができますか。 ・1年生と楽しく関わり、親しみや憧れの気持ちを感じることができたか。 ・運動会でやった踊りを見せることに期待をもって、喜んで踊っているか。 ・温かい気持ちで関心をもちながら園児の踊りを見ているか。
10時30分	☆片付ける。トイレ・水飲み		
10時45分	<p>●運動会のダンスを踊る。 (晴れ:園庭 雨:ホール)</p> <p>雨天時は1クラスずつ発表する。</p> <p>○運動会のダンスを見る。</p> <p>☆感想を言う。</p> <p>○終わりの言葉(小学生)</p> <p>☆さようならの挨拶をする。</p>	<p>☆互いに楽しい時を共有できたことを発表できるような機会をつくる。次回の交流を楽しみにできるような言葉掛けをし、期待につながるようにする。</p>	

◆環境図◆

☆最初の集合時



ぶどう組保育室(3 グループ)



ばなな組保育室(3 グループ)

実践事例12 朝の読み聞かせで、楽しい一日を始めよう！(♥すくすくタイム)

○ねらい

- ・朝の決まった時間に、絵本や紙芝居を聞くことで、落ち着いた気持ちで学校生活を始められるようとする。
- ・決まった時間の読み聞かせを継続して行うことで、学校生活のリズムに慣れるようとする。

○活動のきっかけと環境の構成

- ・入学してから一定の期間は、先生や友達との親近感、安心感がもてるよう床に座って読み聞かせを行う。幼稚園・保育所等での読み聞かせのやり方を取り入れ、椅子に座って話を聞く小学校生活に徐々に慣れさせていく。

○子どもの姿

- ・毎朝、決まった時間に読み聞かせを行う。登校後の準備を行った後に読み聞かせを始める。児童は、落ち着いた気持ちで学校生活を始めることができ、学校生活のリズムを身に付けるといった効果もある。
- ・幼稚園・保育所等で児童が経験した読み聞かせの時の座り方にしばらくは合わせることで、先生や友達に親しみや安心感をもち、小学校生活の円滑な接続ができる。
- ・学校図書館司書や図書のボランティアと連携することで、お勧めの絵本や紙芝居を選んでいただくこともできる。幼稚園や保育所等で読んだことのある経験により、「その本知ってる！」「幼稚園でも読んでもらった」といった歓声があがり、児童が集中して話を聞くと共に安心感や小学校生活への自信にもつながる。



○小学校教師の指導のポイント

- ・読み聞かせをする絵本や紙芝居は、明るく楽しい内容を選ぶことで、子どもたちが、一日の始まりを楽しい気持ちで過ごすことができる。
- ・学校図書館司書を活用し、発達段階や児童の実態等に応じた本を選定することもよい。
- ・児童一人ひとりとの心の交流をもつと共に、集中する一体感がもてるよう配慮する。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ・先生が楽しく読み聞かせすることで、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付ける。【言葉による伝え合い】
- ・友達と一緒に集中して話を聞き、一体感を味わう。【自立心】
- ・絵本や紙芝居との出会いの中で、心を動かす出来事などに触れるとともに、感想などを聞いたりする中で、感じたことや考えたことを表現する喜びを味わう。
【豊かな感性と表現】

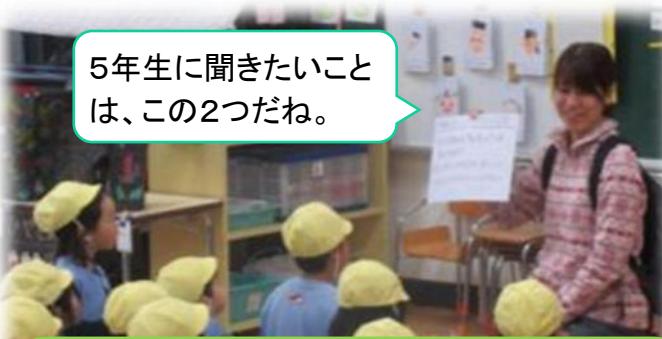


○振り返り

- ・「学校には、毎日楽しいことが待っている」と思うことが大切であり、児童も先生も優しい笑顔で一日を始めることができた。
- ・読み聞かせの他にも、幼稚園・保育所等で行っていた簡単なゲームや体操、歌なども、一日を楽しく始めるには効果がある。

学校のなぜ？なぜ？解決！

5年生に聞きたいことは、この2つだね。

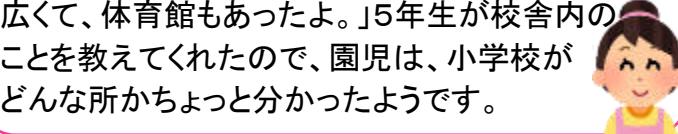


グループで集まり、自己紹介から始まります。その後、教室・校庭・体育館では、初めてみ・やるものばかり。教室では、5年生が使っている机やいすに座ったり、飼育している生物を見せてもらったり…。日常の学校生活を見学・体験することで、小学校のなぜ？なぜ？を解決することができます。

5年生は、園児と何をして遊ぼうか考えていましたが、園児がやりたい遊びと自分たちが考えていた遊びが違い、戸惑う場面も見られました。このような場面を乗り越えていくことが、高学年として成長する糧となります。



「学校には、たくさんの教室があったよ！」「校庭も広くて、体育館もあったよ。」5年生が校舎内のこと教えてくれたので、園児は、小学校がどんな所かちょっと分かったようです。



小学校っていうんな遊びができるね！



小学校5年生と幼稚園年長の年間を通して4回の交流を行いました。

【①田植え ②稲刈り ③お餅つき ④年長さんおめでとう会】田植え・稲刈り・お餅つきは、お兄さん・お姉さんに教えてもらいながら、楽しく過ごしました。



稻の成長と共に

5年生と年長は、入学後、兄弟学年になります。今から交流をすることで、互いに仲良くなり、1年生になった時に知っている6年生がいるから安心ですね。



5年生は、園児とのふれあいの中で、思いやりの心や優しさの心を育んでいきます。1年間を通しての交流は、園児を慮る気持ちが高まり、お祝いの会の企画にも力が入ります。

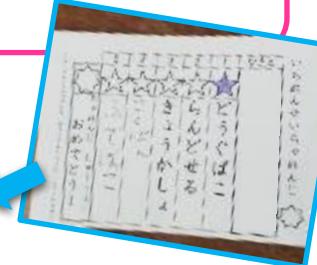
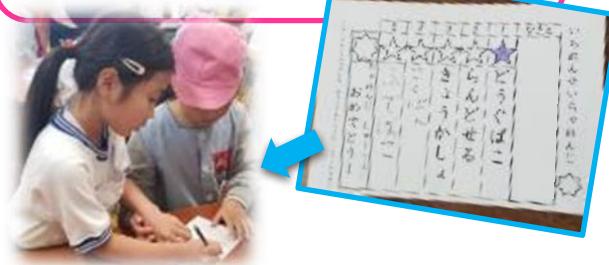


1年生チャレンジ中

1年生チャレンジ！1年生が、お道具箱の中や筆箱の中を見せてくれたり、教科書を読んでくれたりします。園児は、ちょっとお先に、1年生気分です。



1年生チャレンジ中は、初めて見るお道具箱の中身には、興味津々。園長先生が校長先生と呼ばれていて、小学校を実感しましたね。



ここは、校長室だよ。しづかにね。



どんなことを園児にチャレンジさせてあげようかを、生活科で考えました。学校の中を案内するのも、自分たちが2年生に学校探検をしてもらった経験が生きています。

おいしかった！給食楽しみだ！

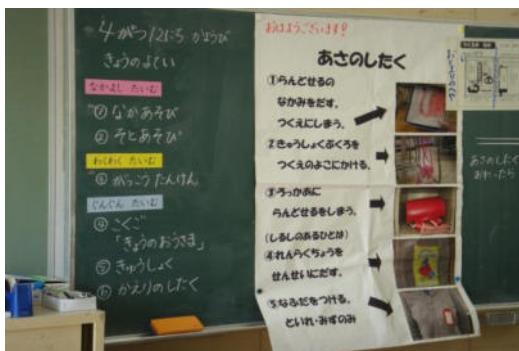
給食を食べられるかな？と心配していた園児達でしたが、5年生に給食のことを教えてもらい、楽しみに変わりましたよ。



配膳を園児にさせてあげることで、手を貸すのではなく、見守ることの大切さも体験することができました。



一緒に遊んだ後は、皆で給食を食べました。おぼんを持って配膳の列に並び、5年生がよそってくれるのを受け取りました。みんなでワイワイ給食を食べ、片付けは、5年生に教えてもらいながら、お皿を重ねたり、お箸をかごに入れたりしました。早く白衣を着て給食を配ってみたくなった、園児達です。

実践事例14**視覚効果で児童は自分の力で準備できます。**

黒板に、朝の準備の仕方などを分かりやすくしたり、ロッカーにランドセルの入れ方などを写真で示したりすることで、自分で確認したり、考えたりしながら進められます。一から教えてあげる必要はありません。経験をもとに、自分でできたという気持ちをもたせてください。

安心で自由な場づくりが、児童の活動の幅を広げます。

※マット活用のイメージ



のんびりできるマットの活用や、教室を大きく使って、体を動かしながら友達とふれあう活動(左上の写真は「進化ジャンケン(じゃんけんで勝ち上がると、タマゴ→ひよこ→にわとりに進化する)」)をしたり、机の上で、ブロック遊びをしたり、ぬり絵ができたりすれば、児童は、教室で様々な活動ができます。そういうたった児童の活動の幅を広げられるような環境設定が大事ですね。

子ども同士の直接的な関わりの場を作ります。



一日の始まりから、4人グループの席を作って活動します。朝の準備に自信のない児童も、友達の行動を見て気付くことができます。また、友達が目の前にいて、話したり遊んだりすることで、人間関係が広がっていきます。短い時間で手遊びやグループ対抗のことばあつめなどをするとより効果的です。



第6章 今後の課題と展望

1. カリキュラムを実践して

(1) モデル実践園（校）を中心に、以下のような声が挙げられています。

①アプローチカリキュラム

- ・これまでの保育をベースに、小学校に繋がる要素を意識するようにした。
遊びの中で様々なものを学び、自信をつける子どもの姿が見られた。
(幼稚園)
- ・アプローチカリキュラムは就学前5歳児1月から始まるが、幼稚園に入園したその時からの積み重ねがあつてこそ活きてくるものだと感じた。
(幼稚園)
- ・保育する職員が、話し合いや伝え合いにより目的を明確にした充実したアプローチをすることが大切である。(保育園)
- ・小学校との交流事業を経て、「もうすぐ1年生になるんだ」という意識が強くなり、自分の身の周りのことを進んで行う姿が増えた。(保育園)

②スタートカリキュラム

- ・入学期における、児童の学校への不安が減った。
- ・カリキュラムがあることで、ねらいを明確にして、学年共通で取組むことができた。
- ・時間にとらわれずに柔軟に活動することで、状況に応じた指導や保育の工夫につなげることができた。

(2) アンケート調査の結果より

平成29年度及び平成30年度に、スタートカリキュラムを試行した区立小学校全校の第1学年担任教諭を対象に、アンケート調査を実施しました。

その結果、「スタートカリキュラムの実施により、児童が学校生活に安心感をもてるようになったと考えられますか」や「学校生活を踏まえ、きまりを守って行動する姿が見られるようになりましたか」という項目において、2ヵ年とも95%以上が肯定的回答となったとともに、29年度より30年度の方が、最も肯定的な項目である「クラスの2/3以上」という回答の割合が高くなっていました。

しかし、その他の質問項目についても、多くの場合は2ヵ年とも肯定的回答が80%を超えていましたが、30年度と29年度を比較すると横ばいもしくは29年度の方が肯定的という状況も見受けられています。

また、「児童の幼稚園や保育園等時代の生活や遊びの経験を意識して指導を行いましたか」という項目においては、肯定的回答が75%未満、「幼稚園や

保育園等でやってきたことを聞きながらやりとりをすることで、『できる』という気持ちをもてるようになりましたか」という項目では、2ヵ年とも肯定的回答が80%未満となっています。

東京都の人事制度上、世田谷区内の小学校教員は数年に1度人事異動（区内外からの転出入もあり）がある上に、常に同じ教員が小1担任を務めることは限らないことも、アンケート結果に影響したものと推察されます。

スタートカリキュラムを浸透させるには、今後も継続的な理解促進や幼稚園・保育所等・小学校の連携に努める必要があります。

※アンケート結果については、資料編に掲載しています。

2. 今後の課題

今後の取組みにあたって、下記のような課題が挙げられます。

- (1) 幼稚園・保育所等・小学校の互いのきめ細かい情報交換と相互理解
- (2) 幼稚園・保育所等・小学校において、学校、園全体での組織的・計画的な取組み
- (3) それぞれのカリキュラムを意識した、指導や保育のより一層の充実

3. 今後の展望

新しい学習指導要領においては、資質・能力の三つの柱を踏まえて整理され、幼稚園・保育所等と小学校、さらには中学校、高等学校まで、縦のつながりで見通していくことができるようになりました。

しかしながら、遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育課程は、内容や進め方が異なり、その接続は決して容易ではなく、幼児期における「遊び」や「日常生活における体験」で育まれた力を教科指導中心の学校教育への円滑な接続が求められます。また、「世田谷9年教育」が幼児教育と義務教育を一体的に捉える新たな仕組みとして見直されることを踏まえ、幼稚園・保育所等と小学校の連携の推進に向けた新たな仕組みの検討も課題です。

今後、相互の教育内容を理解していくとともに、乳幼児期における教育・保育と学校教育の円滑な接続の実現に向け、アプローチ・スタートカリキュラムの実践や合同研修・研究等を推進し、その効果の検証に取り組んでいきます。

資料編

スタートカリキュラム実施後のアンケート集計結果 · · · · · 69

アプローチ・スタートカリキュラム検証委員会名簿 · · · · · 81

スタートカリキュラム実施後のアンケート集計結果

※ 平成29・30年度経年比較

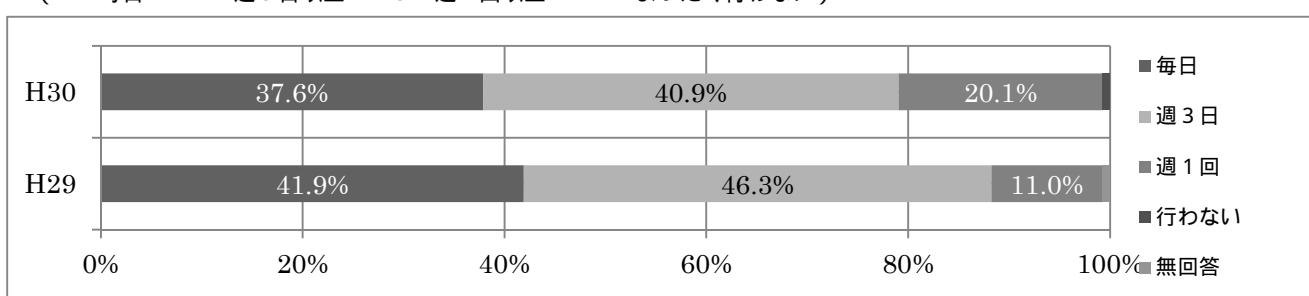
1 「世田谷版スタートカリキュラム」の実施についてお答えください。

『スタートカリキュラムの目的』

小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所等で遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、新しい学校生活で主体的に自己を発揮していくことを目的とする。

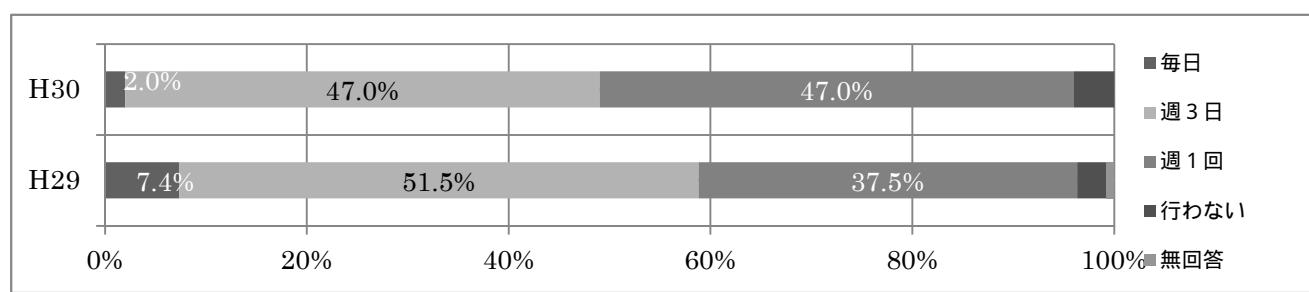
①登校して朝の支度が終わった後や授業等で子ども同士の人間関係の幅が広がるような関わりを意識した活動を取り入れましたか。

(1 毎日 2 週3日以上 3 週1回以上 4 まったく行わない)



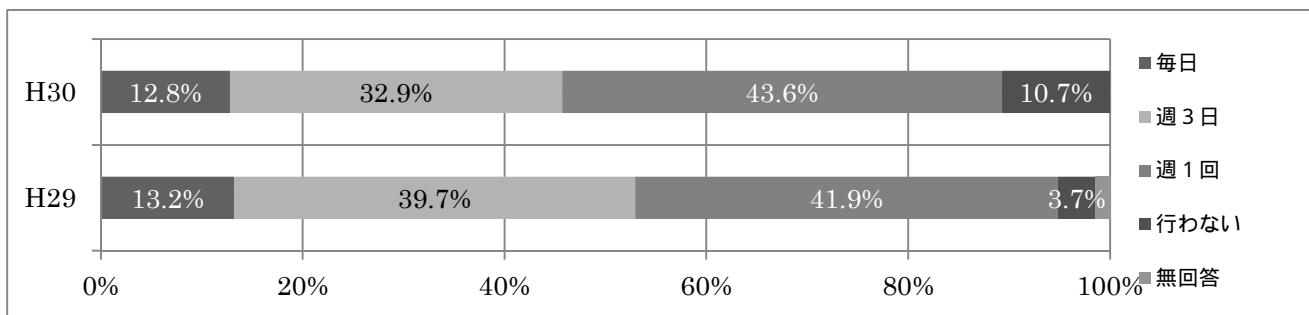
②校庭や体育館、空き教室など、広いスペースを使った活動を学級または学年で行いましたか。

(1 每日 2 週3日以上 3 週1回以上 4 まったく行わない)



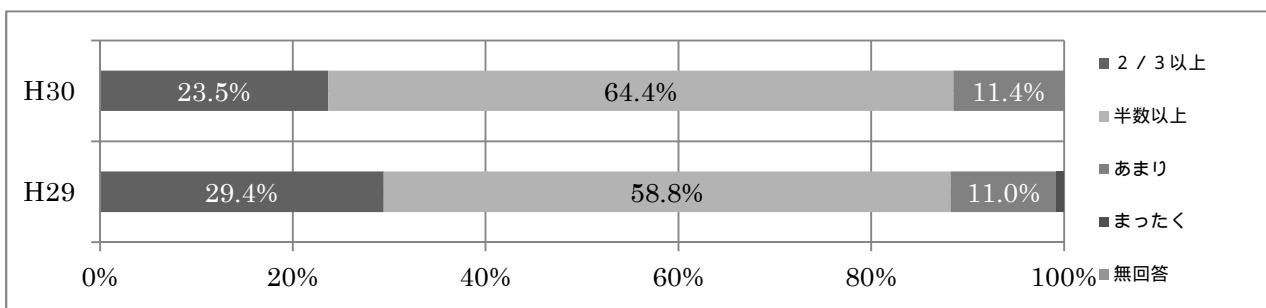
③朝の会及び1校時の活動の中に、児童が体を動かす活動を取り入れましたか。

(1 每日 2 週3日以上 3 週1回以上 4 まったく行わない)



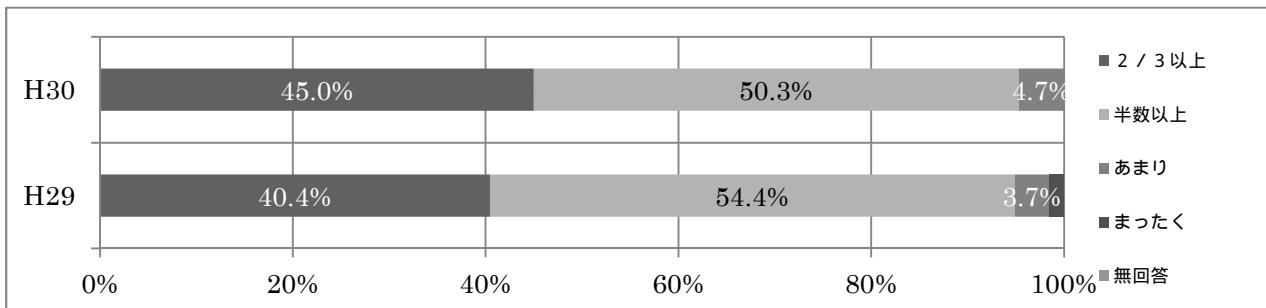
④スタートカリキュラムの実施により、児童の人間関係の幅は広がったと考えられますか。

(1 クラスの2/3以上 2 クラスの半数以上 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



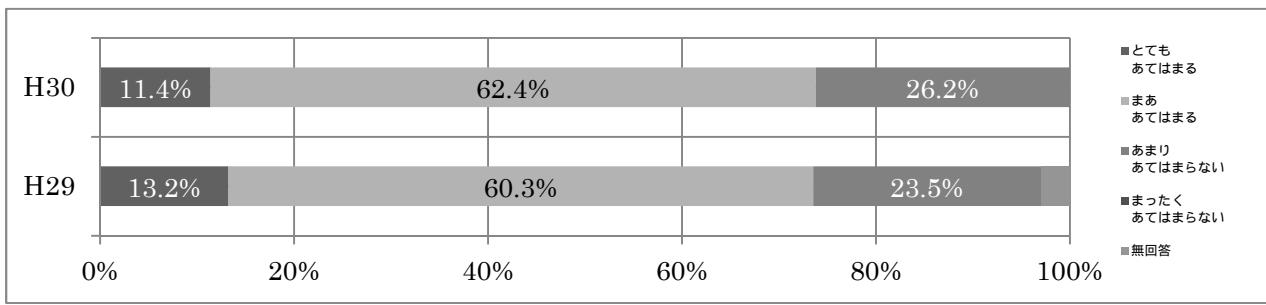
⑤スタートカリキュラムの実施により、児童が学校生活に安心感をもてるようになったと考えられますか。

(1 クラスの2/3以上 2 クラスの半数以上 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



⑥児童の幼稚園や保育所等の時代の生活や遊びの経験を意識して指導を行いましたか。

(1 とてもあてはまる 2 まああてはまる 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



※1、2を選択した場合は具体例をお書きください。

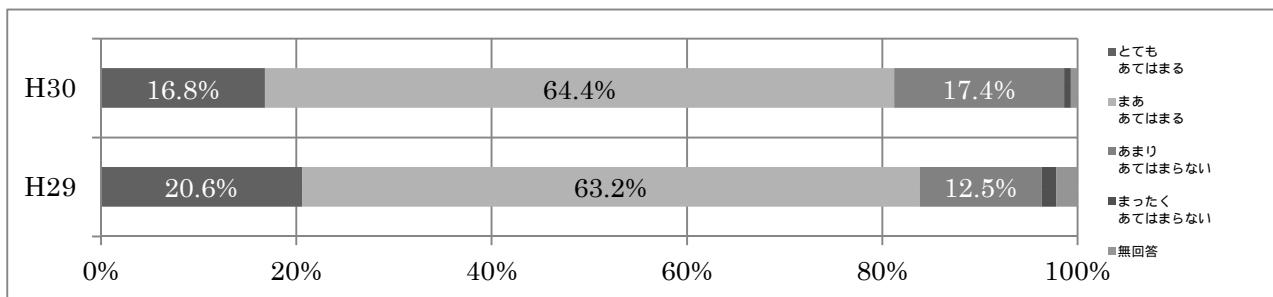
〔具体例〕

- ・おに遊び
- ・まねっこ遊び
- ・おりがみ
- ・遊具遊び
- ・貨物列車
- ・幼稚園、保育所等での経験を話させて、歌を歌わせたりした。
- ・手遊び
- ・じゃんけん列車
- ・幼稚園、保育所等で行った遊び
- ・幼稚園、保育所等で歌った歌
- ・もうじゅうがり
- ・読み聞かせ
- ・リズム遊び
- ・自己紹介ゲーム
- ・洋服のたたみ方
- ・どんじゃんけん

⑦ 1 単位時間の中に、2 ~ 3 くらいの教科を取り入れた授業を行いましたか。

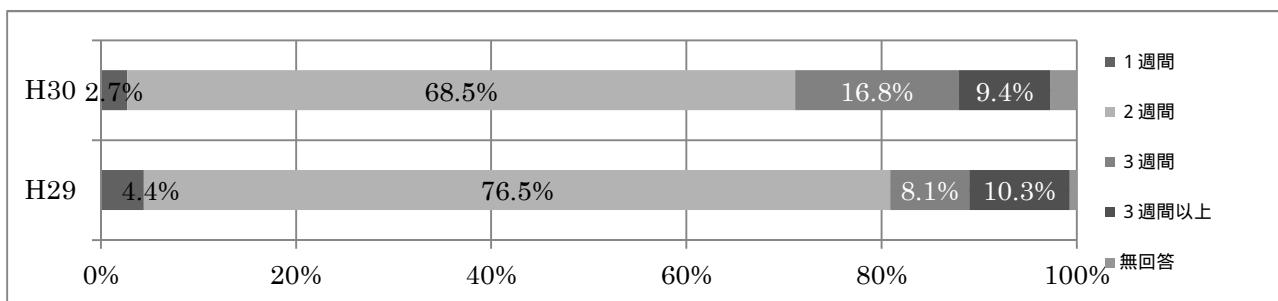
※「世田谷版スタートカリキュラム表（平成30年度試行版）」に記載

(1 とてもあてはまる 2まああてはまる 3あまりあてはまらない 4まったくあてはまらない)



⑧スタートカリキュラム実施期間はどれくらいですか。

(1 1週間 2 2週間 3 3週間 4 3週間以上)



2以外を選択した場合、理由もお書きください。

[1週間]

- ・あまり実施してしていない。
- ・よく理解できなかった。目的や具体例、取組内容、打ち合わせができない。

[3週間]

- ・教科の学習に移行するようなカリキュラムにした。
- ・4月中は行った。
- ・十分な時間を使いたかった。
- ・慣れてからもう少し様子を見たかった。
- ・一人ひとりの安心のため

[4週間]

- ・時間をかけて実施したほうがよいこともある。
- ・校長先生の方針
- ・他校のスタートカリキュラムについて研修会に参加
- ・自校の教育計画通り
- ・生活科を中心としながら、学校生活になれさせていくために必要

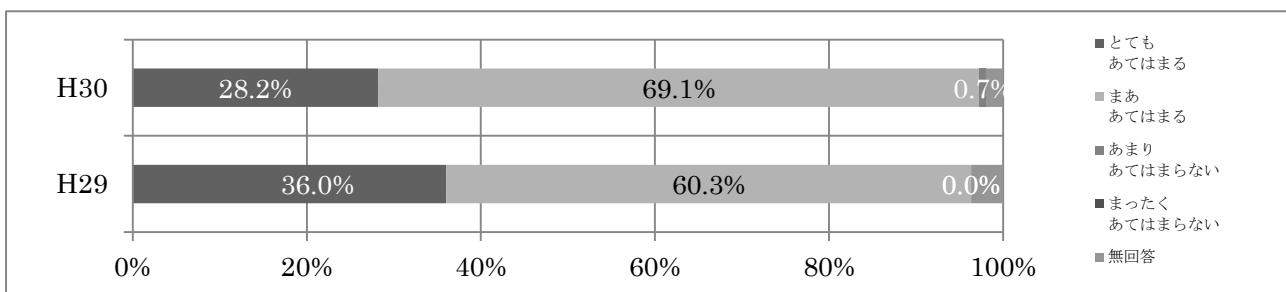
2 週ごとに示したねらいに沿った活動についてお答えください。

第1週のねらい

- ・学校は安心して過ごせるところという気持ちをもつ。
- ・教師との一対一の関係やスキンシップを大切に、信頼関係を築きながら、学校生活に安心感をもつ。
- ・幼稚園や保育所等でやってきたことを思い出しながら、「できる」という気持ちや安心感をもつて過ごす。

①学校生活に安心感をもたせることを意識した活動ができましたか。

(1 とてもあてはまる 2 まああてはまる 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



1、2を選択した場合は具体例を、3、4を選択した場合は理由をお書きください。

[1、2についての具体例]

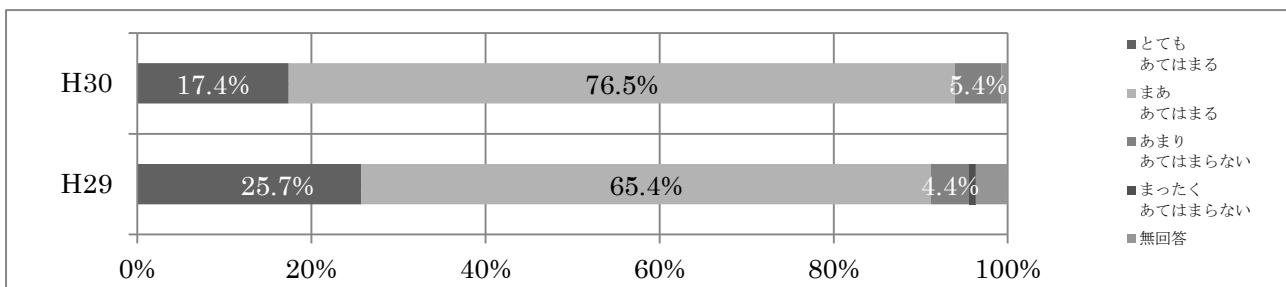
- ・読み聞かせ 【多数】
- ・簡単なゲーム（リズム、手遊び、ことば遊び、サインあつめ、名刺交換、あいさつ、まねっこ）
【多数】
- ・一人1日1回なるべくほめる。たくさんほめる。【多数】
- ・学校の先生、施設のことを知る活動を取り入れる。
- ・見通しを持つため、視覚的理【多数】
- ・朝のあいさつ、呼名 【多数】
- ・担任からの進んで声掛け 【多数】
- ・友達同士で仲良くなれる活動
- ・リズムや歌を頻繁に取り入れる。【多数】
- ・朝、靴箱で迎え入れる
- ・暖かい声掛けを意識した。
- ・困ったときは先生に何でも話してということ
- ・握手、ハイタッチ 【多数】
- ・友達と対面したグループでの座席の活用
- ・トイレ確認

[3、4の理由]

記述無し

②教師との一対一の関係やスキンシップを大切にした活動ができましたか。

(1 とてもあてはまる 2 まああてはまる 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



1、2を選択した場合は具体例を、3、4を選択した場合は理由をお書きください。

[1、2の具体例]

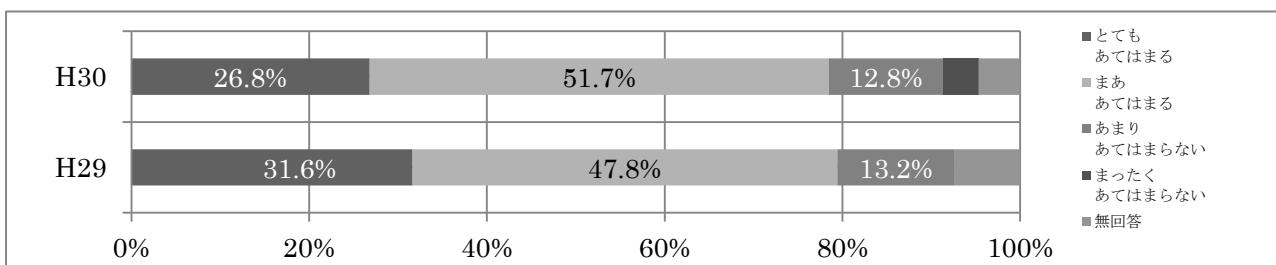
- ・ハイタッチ（帰り、活動ごと）【多数】
- ・握手【多数】
- ・朝の呼名【多数】
- ・背をかがめてしゃがんで目性を合わせる。
- ・休み時間一緒に遊ぶ。【多数】
- ・自己紹介
- ・一人ひとりと目を見て挨拶
- ・パペット人形を用いた。
- ・先生じゃんけん
- ・「～さん」と呼ぶ。

[3、4やってないの理由]

- ・時間がないので、無しに等しい。
- ・あまりとれていない。

③幼稚園や保育所等でやってきたことを聞きながらやりとりをすることで、「できる」という気持ちをもてるようになりましたか。

(1 クラスの2/3以上 2 クラスの半数以上 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



1、2を選択した場合は具体例を、3、4を選択した場合は理由をお書きください。

[1、2の具体例]

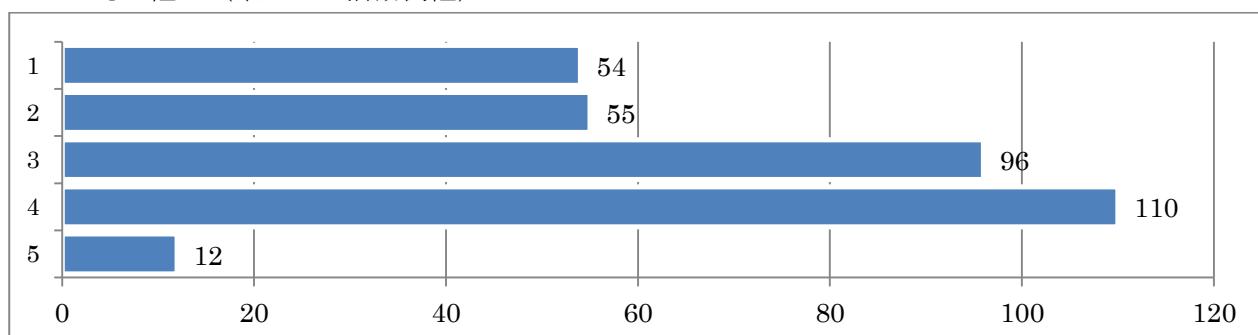
- ・幼小の共通するきまりを聞き、学校でも同じだと伝える。
- ・自分たちがやってきたことが大丈夫だと分かり、自信をもって活動できる。
- ・朝の準備や手洗い、トイレの使い方など【多数】
- ・年長としてやってきたことを1年生でもがんばろうと声掛けした。
- ・音楽では、歌つことのある歌を中心に歌っている。
- ・今までやってきたことを聞いたり教えてもらったりしながら、自己有用感、自己肯定感を高めることができた。【多数】
- ・「こんなことしたよ」という声でいろいろと教えてくれます。
- ・元気な挨拶や返事【多数】

[3、4 やってないの理由]

- ・幼稚園や保育所等で活動してきたことが小学校と異なり、全体として「できる」という感覚は難しい。
- ・どんなことをやってきたか、聞き取ることはない。
- ・そういう時間はとれない。
- ・聞き取りを意識してやっていないが、ほめるとは意識した。
- ・学校でのやり方を指示することが多い。

④「世田谷版スタートカリキュラム表（平成30年度試行版）」第1週における備考欄に示されている活動を行いましたか。（複数回答）

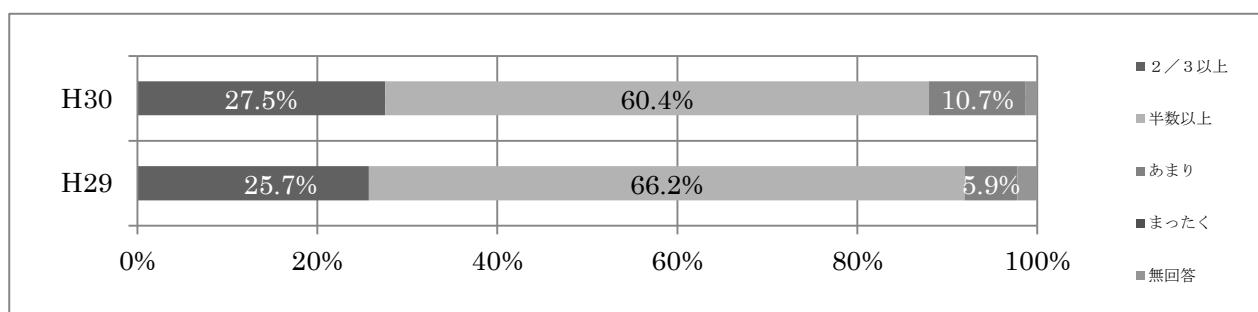
- 1 呼名されたら担任と握手する。
- 2 登校が楽しくなるような宿題を出す。
- 3 さよならジャンケン
- 4 歌の活動ではゲームを取り入れながら楽しく歌う。
- 5 その他 （楽しんだ活動例他）



※複数回のため、回答数で表記

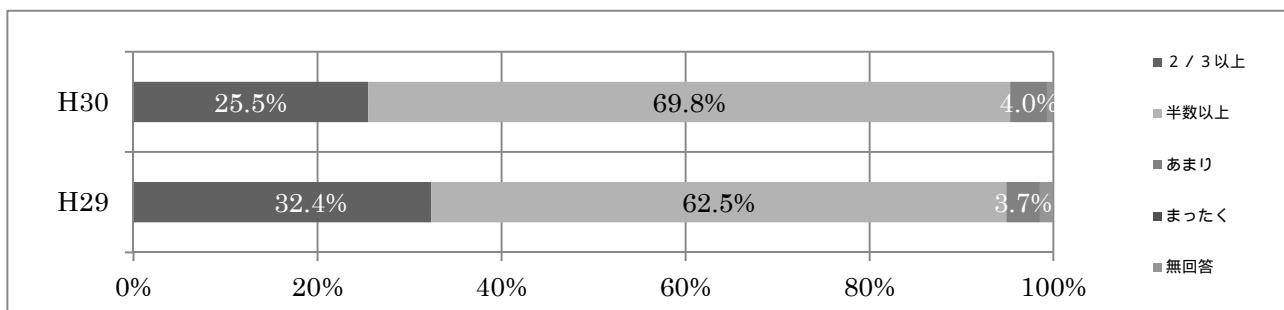
⑤学校生活の中で自分らしさを表現する姿が見られるようになりましたか。

- (1 クラスの2/3以上 2 クラスの半数以上 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



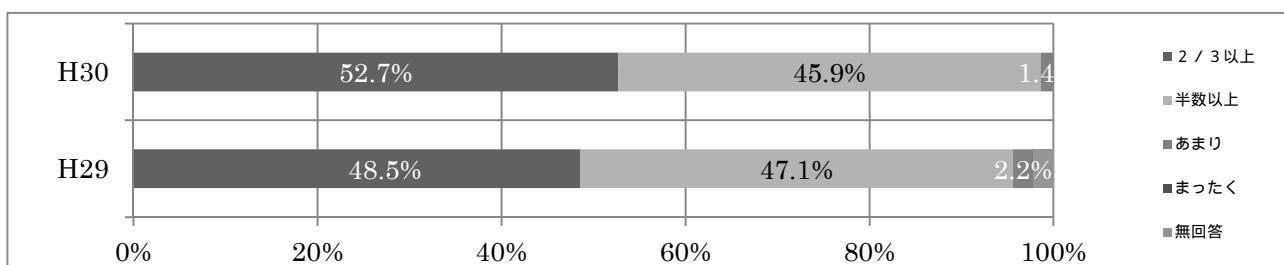
⑥教師だけでなく、友達と仲良く過ごし、信頼関係を築いている姿がみられるようになりましたか。

(1 クラスの 2/3 以上 2 クラスの半数以上 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



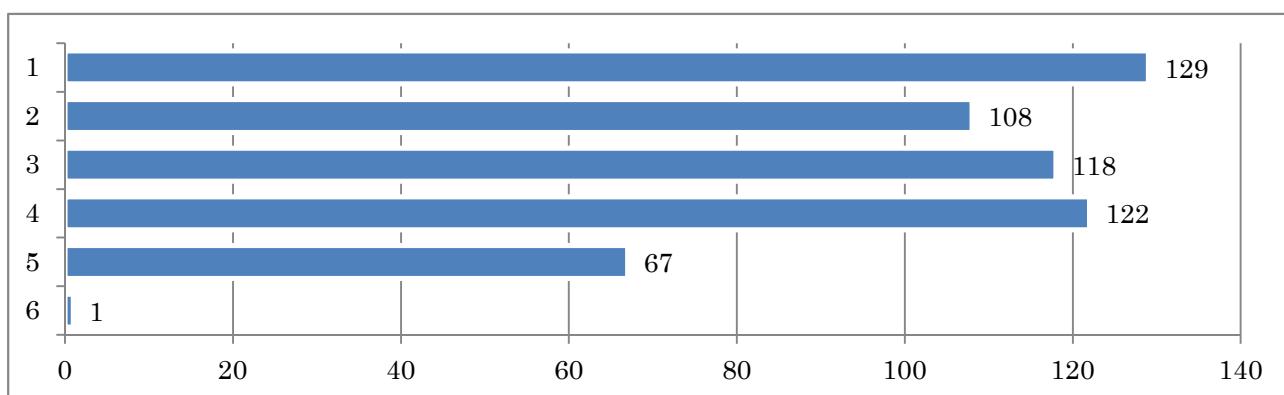
⑦学校生活を踏まえ、きまりを守って行動する姿が見られるようになりましたか。

(1 クラスの 2/3 以上 2 クラスの半数以上 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



⑧「世田谷版スタートカリキュラム表（平成30年度試行版）」第2週における備考欄に示されている活動を行いましたか。（複数回答）

- 1 皆で楽しめる活動を多く取り入れる。
- 2 実物投影機やタブレット型パソコンを使った授業を行う。
- 3 教科「日本語」において、皆で声を出す活動を行う。
- 4 子どもの作品をすぐに教室に掲示する。
- 5 一斉活動に一緒に参加できない児童のために、落ち着ける居場所の確保等、個別に対応できるようにする。
- 6 その他

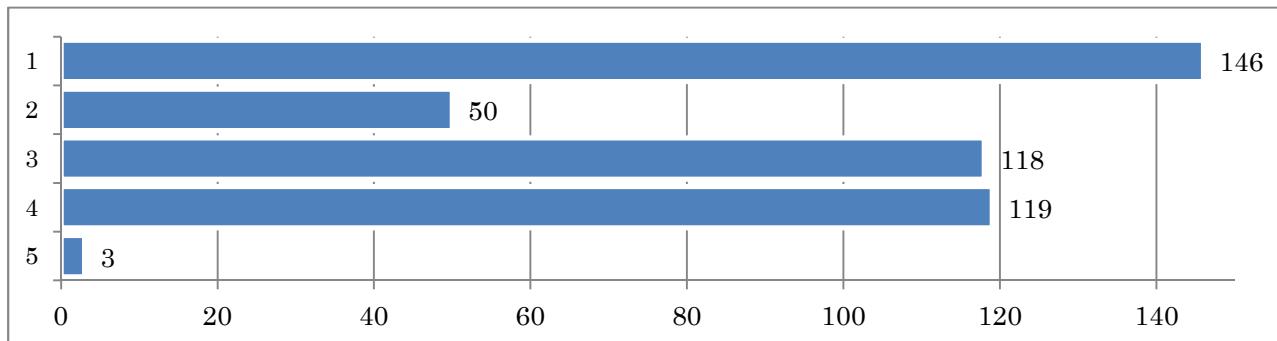


その他：支援要員の配置

3 学校の体制について

① スタートカリキュラムの実施に当たって学年でどのような取組をしましたか。(複数回答)

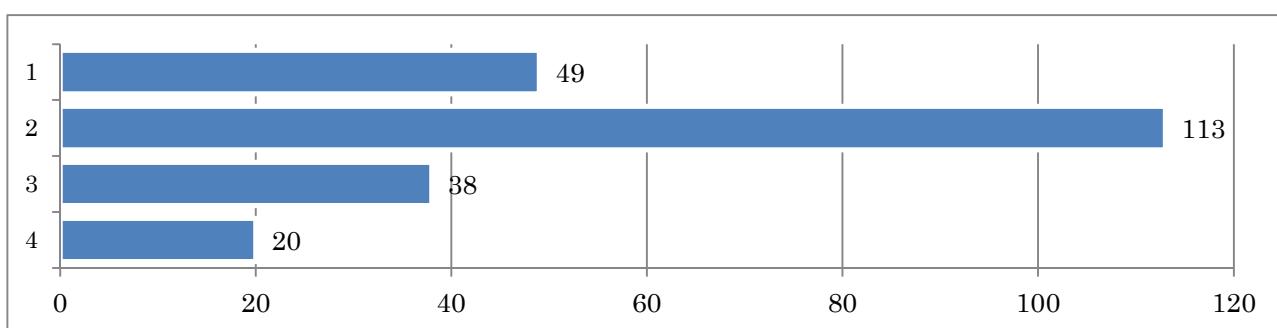
- 1 共通理解 一日の流れ・活動内容・時数
- 2 幼保の先生との情報交換
- 3 分かりやすい表示の工夫
- 4 日々の反省会や翌日の打合せ等の会議
- 5 その他



その他：児童の情報交換 学年打ち合わせノート 学校司書との打ち合わせによる絵本選び

② スタートカリキュラムの実施に当たって学校内でどのような取組をしましたか。(複数回答)

- 1 校内組織づくり
- 2 校内全体での共通理解と協力
- 3 専科担当教員との合同授業 (教科名)
- 4 その他



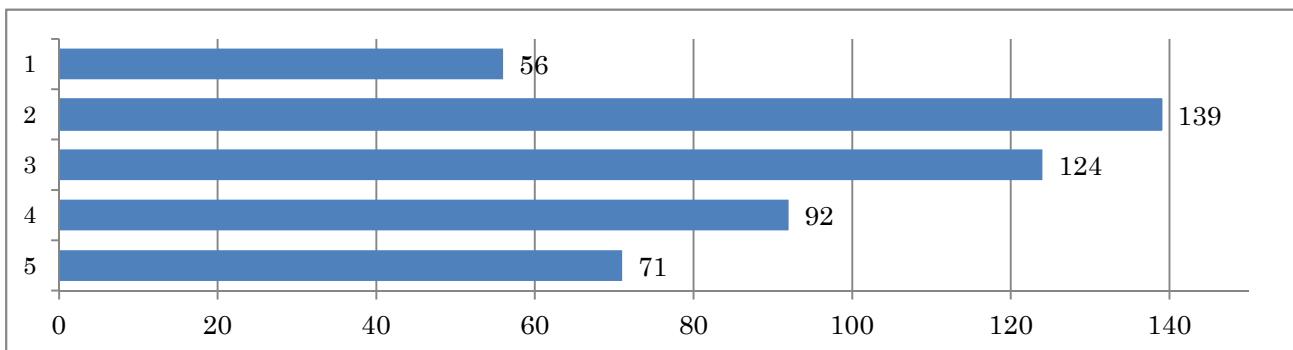
専科教員との合同授業：音楽、図工、書写

その他：専科・栄養士の給食指導、学校包括支援員との連携、幼稚園連携、他学年との関わり

- 4 「『世田谷版スタートカリキュラム表』(平成30年度試行版)の活用について」A4両面刷りの記載内容についてお答えください。

①「(1) 安心感をもって過ごすための配慮」について、どのような取組をしましたか。(複数回答)

- 1 教師がやり方をすべて指示するのではなく、子どもたちが経験し、できることを確認して、任せた。
- 2 登校時の朝の準備に、板書したり、写真で提示したりして、視覚的に理解しやすくした。
- 3 手伝いの6年生に対して、1年生ができるることは自分でさせるようにし、できたことをほめるように事前指導した。
- 4 子ども同士の直接的な関わりを促すため、4人グループなどの席で座る。
- 5 朝の時間等に、リズム遊びやゲームで先生や友達とのスキンシップを多くもつ。



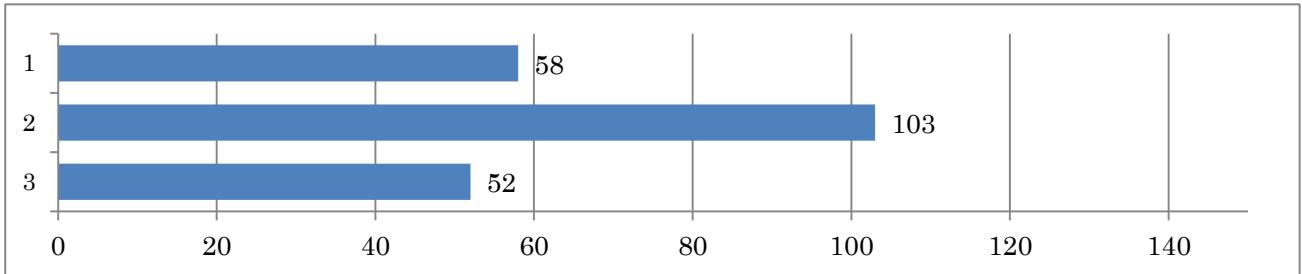
※回答した内容についての具体例と効果

- ・手順を、視覚的資料を用いて丁寧に説明した。【多数】
- ・文字を使わず、写真で掲示したことにより、自分の力で準備ができるようになった。また、それをほめることでより自信がついた。
- ・実物投影機の活用
- ・担任に聞くだけでなく、分からないうことは友達同士で相談し合うようにした。
- ・靴箱、道具箱、ロッカーの写真の掲示【多数】
- ・一人1役の当番活動により、進んで何かに取り組もうとする意欲が見られた。
- ・朝の読み聞かせの実施【多数】
- ・6年生がたくさんほめてもらってとても嬉しそうだった。
- ・最初は6年に手伝ってもらつたが、早い段階から、困っている子を手伝うようにし、終わった子への待ち時間が楽しくなるようなことをしてもらった。ほめてあげることも声掛けした。
- ・グループの座席で、お互いのよさを発見することができた。
- ・「園ではどうやっていたの？」と声を掛け、園での経験を語らせて行動させた。
- ・グループでのおしゃべりタイムを設けた。

②「(2) 学校ごとのアレンジ（弾力的な取組）」について、どのような取組をしましたか。」

(複数回答)

- 1 朝の会から1校時の時間を合わせて活動を行った。
- 2 15分程度の短時間ごとに複数の活動を行った。
- 3 個→集団といった流れで活動内容を変えながら実施した。

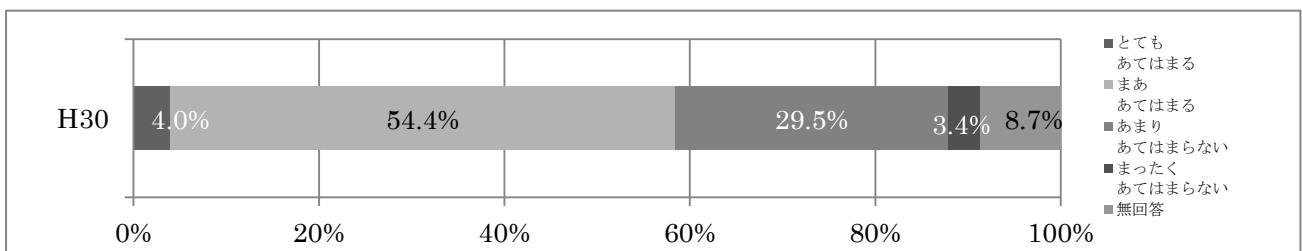


※回答した内容についての具体例と効果

- ・短時間ごとの活動により、集中力が高まった。【多数】
- ・指導の中身だけでなく、話を聞く、体を使った活動、話し合いなど活動の内容も変える。【多数】
- ・子どもたちの様子を見て、柔軟に活動を変化した。（15分にこだわらない）
- ・朝にみんなで音読をして、声を出してから1校時を迎えた。
- ・1単位時間の中で、座って書く、聞く活動と体を使う活動、歌などの声を出す活動を組み合わせた。
- ・隣同士でノートの見せ合い。学級内を歩いて、自分の考えを発表する活動
- ・生活の身近な物やことがらを使って活動した。
- ・個で考える時間とグループ、集団で考える時間を意識して取り組んだ。

③新学習指導要領「生活科編 解説」のスタートカリキュラムに関する記述や、国立教育政策研究所「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」を参考にしてスタートカリキュラムを実施しましたか。

(1 とてもあてはまる 2 まああてはまる 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない)



5 その他

①スタートカリキュラムの円滑な実施に向け、工夫された点、調達した物品等がありましたら記述ください。

〔工夫した点〕

- ・入学式の中身の精選（時間の短縮）
- ・黒板に絵をかいた。【多数】
- ・視覚的に分かりやすいようにした。【多数】
- ・学年間の綿密な打ち合わせ
- ・毎日朝の会での呼名
- ・保護者に対して、スタートカリキュラムについて説明した。
- ・4～5人のグループでの机の配置
- ・スタートカリキュラムの実践が進んでいる学校を参観した。
- ・支援要員の配置【多数】
- ・友達同士が関わる活動を意図的に実施
- ・朝のスタートはゆっくりあわてないで行い、短い時間で区切りながら様々な活動をする。
- ・給食ボランティアを保護者や学校運営委員会・地域の方にお願いした。
- ・多摩指導モデルMIMで研修を受け、活用した。
- ・1日の流れを板書、終わったら○を付けていく
- ・黒板掲示等、ラミネート加工し、使った。

〔購入したもの〕

- ・CDセット
- ・ミニゲーム資料
- ・ビッグブック（大型絵本）
- ・鉛筆ホルダー
- ・パズル
- ・百玉そろばん、10玉そろばん、フラッシュカード
- ・フリースペース用のマット
- ・ミニホワイトボード（ミニ黒板）
- ・見えるタイマー
- ・模型の時計

②スタートカリキュラムを実施した成果について具体的に記述ください。

- ・児童の学校への不安が減った。【多数】
- ・今までの1年生の担任がやってきたことを例に挙げながら見やすくまとめてくださったので、効果的に実施ができた。
- ・明日への元気をチャージできた。(様々な事例を通して)
- ・スムーズに学校生活に慣れることができた。【多数】
- ・カリキュラムがあることで、学年共通して取り組むことができた。
- ・1年生が安心して教室に入り、担任などとの信頼関係を築くことができた。
- ・各週のねらいを明確にして指導したこと、指導が積み重なった。
- ・より、集団になじみやすかった。
- ・友達関係が広がった。【多数】
- ・児童がよく笑うようになった。困ったときは相談するようになった。
- ・「一緒に遊ぼう」といった声が聞こえるようになった。
- ・グループでの交流しやすい座席により、安心して過ごせるようになった。
- ・グループでの座席で、毎日お互いの顔が見え、安心して過ごすことができた。
- ・月曜日が待ちきれないと言う子どもたちが多い。
- ・受け身でなく、児童が意欲的に活動するから、子どもたちが疲れない。
- ・15分単位の活動により、集中力を保てる事も多かった。
- ・授業時間にとらわれずに柔軟に活動することで、無理なく過ごすことができている。【多数】
- ・体を動かす活動や歌やゲームを多く取り入れ、学校生活への期待感が高まっていった。
- ・専科教員などとの連携により、給食指導や登校時の対応などが充実した。

③スタートカリキュラムの円滑な実施に向け、今後の課題点について記述ください。

- ・実施についての周知・啓発
- ・環境等必要な用具等の準備
- ・打合せ時間の不足
- ・幼小の連携
- ・1年生以外の学校全体への周知・啓発(専科教員、通級指導教員)【多数】
- ・人員配置(配慮を要する児童への支援要因)【多数】
- ・適正入学
- ・ゲーム等の苦手な子、入らない子に対する配慮
- ・よい教材をそろえるための予算
- ・幼稚園の活動が分かるとよい。【多数】
- ・座席のグループ化は、体の向きなどで支障もある。使い分けが必要
- ・休み時間と授業中の切り替え
- ・配布物が多いので、時間がとりにくい。配りものの時期をずらしてほしい。
- ・幼稚園、保育所等でよく歌われている歌、手遊び等の例を具体的に教えてほしい。
- ・複数の幼保からくる児童への対処

アプローチ・スタートカリキュラム検証委員会 委員名簿

(役職は平成31年3月時点)

1	学識経験者	篠原 孝子
2	乳幼児教育アドバイザー	赤坂 榮
3	乳幼児教育アドバイザー	高橋 かほる
4	赤堤小学校校長	船山 徹
5	笹原小学校校長	後藤 真司
6	あかつみ幼稚園園長	額纏 りえ
7	豪徳寺保育園園長	柄木田 えみ
8	桜丘幼稚園副園長	藤田 和代
9	笹原小学校主幹教諭	宮澤 育子
10	笹原小学校主任教諭	土器屋 比古
11	桜丘幼稚園主任教諭	山田 麻衣子
12	すこやか園主任保育士	関根 亜希子

事務局

幼児教育・保育推進担当課：課長 須田健志、係長 池龜雄太

教育指導課
：副参事 板澤健一、統括指導主事 佐藤勝也、
指導主事 来山 憲 指導主事 佐藤樹里

保育課
：課長 後藤英一、係長 山本恵理子

アプローチ・スタートカリキュラム検証委員会 委員名簿

(役職は平成31年3月時点)

1	学識経験者	篠原 孝子
2	乳幼児教育アドバイザー	赤坂 榮
3	乳幼児教育アドバイザー	高橋 かほる
4	赤堤小学校校長	船山 徹
5	笹原小学校校長	後藤 真司
6	あかつみ幼稚園園長	額纏 りえ
7	豪徳寺保育園園長	柄木田 えみ
8	桜丘幼稚園副園長	藤田 和代
9	笹原小学校主幹教諭	宮澤 育子
10	笹原小学校主任教諭	土器屋 比古
11	桜丘幼稚園主任教諭	山田 麻衣子
12	すこやか園主任保育士	関根 亜希子

事務局

幼児教育・保育推進担当課：課長 須田健志、係長 池龜雄太

教育指導課
：副参事 板澤健一、統括指導主事 佐藤勝也、
指導主事 来山 憲 指導主事 佐藤樹里

保育課
：課長 後藤英一、係長 山本恵理子

